

宇多津町議会議長 殿

教育委員会の事務の管理 及び 執行の状況の点検 及び 評価に関する報告書

(平成28年度対象)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に
基づき報告書を提出いたします。

宇多津町教育委員会

はじめに

I 目的及び制度の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目標に、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることになっていきます。

II 点検・評価の対象

「平成 28 年度宇多津町教育方針」に基づき、各項目ごとに目指す姿として「施策の目標」との関連で、平成 28 年度の進捗状況について、点検・評価の対象としました。

III 点検・評価の方法

平成 28 年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、「施策の目標」に掲げている項目の点検・評価表を掲載しています。また、点検・評価の客観性を確保するために、「宇多津町教育評価委員会」を開催し、(平成 29 年 12 月 22 日) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 2 項に規定する学識経験を有する次の方々から、ご意見をいただきました。

| 氏 名 | 所 属 等 |
|---------|---------------|
| 玉 井 正 明 | 香川短期大学名誉教授 |
| 会 澤 勲 | 四国学院大学教授 |
| 長 尾 順 二 | 元宇多津町教育委員会教育長 |

参考資料 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋) * * * * *

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成28年宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| 目 次 | 頁 |
|------------------------------------|----|
| 1. 活力ある学校教育の推進 | |
| (1) 夢と目標を抱かせ人間力を高める連携教育の推進 | |
| ①宇多津町ソリューションシステムによる連携・一貫教育の推進 | 3 |
| ②保・幼・小・中の連携した英語教育・外国語活動の推進 | 4 |
| ③情報教育の推進 | 5 |
| (2) 安心・安全な学校づくり | |
| ①実践的な防災教育の実施と防災力の向上 | 6 |
| ②問題行動等の防止 | 7 |
| ③学校情報・地域情報配信の充実 | 8 |
| (3) 健康教育の推進 | |
| ①安全・安心な学校給食の実施 | 9 |
| ②生活習慣病の予防促進 | 10 |
| (4) 教育施設的环境整備 | |
| ①学校諸施設の整備・充実 | 11 |
| ②ICT化の促進 | 12 |
| (5) その他 | |
| ①いじめ防止等対策委員会の実施 | 13 |
| ②就学前健康診断事前アンケート（「成長シート」）の実施 | 14 |
| ③教育相談 | 15 |
| 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の推進 | |
| (1) 子どもたちの自尊心を育む環境づくりの促進 | |
| ①子ども会の育成 ②寺子屋 ③子ども議会 ④成人式 | 16 |
| (2) 保護者を対象とした家庭教育の推進 | |
| ①家庭教育学級 | 20 |
| (3) 人権尊重の知識を養う人権教育の推進 | |
| ①人権・同和教育（生涯学習課） | 21 |
| ②人権作品展（学校教育課） ③人権・同和教育だより（学校教育課） | 22 |
| (4) 放課後児童を対象とした学習支援・スポーツ活動等の充実 | |
| ①放課後児童健全育成事業 | 23 |
| (5) 挨拶運動並びに積極的なボランティア活動の推進 | |
| ①あいさつ運動（学校教育課） ②QUの取組 | 24 |
| ③清掃活動（学校教育課） | 25 |
| ④ボランティア活動（児童生徒）（学校教育課） | 26 |
| ⑤学校支援ボランティア促進事業（学校教育課） | 27 |
| (6) その他 | |
| ①少年育成センター業務 | 28 |
| ②サポートチーム連携協議会 | 29 |
| ③宇多津町虐待防止ネットワーク協議会 | 30 |
| 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 | |
| (1) 文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の支援と推進 | |
| ①宇多津検定 ②平成相聞歌 ③文化財 | 31 |
| (2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実と推進 | |
| ①女性セミナー | 34 |
| ②生涯学習講座 | 35 |
| ③宇多津大学（老人会） | 36 |
| (3) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進 | |
| ①スポーツの推進 | 37 |
| ②大松杯バレーボール大会 | 38 |
| ③宇多津子どもロードレース大会 | 39 |
| ④スポーツ及び文化芸術激励金等交付事務 | 40 |

【その他の意見】

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|--------------------------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (1) 夢と目標を抱かせ人間力を高める連携教育の推進 |
| 事業内容 | ① 宇多津町ソリューションシステムによる連携・一貫教育の推進 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 町連携協議会・・・年2回実施。
 - (1) 第1回 6月22日(水) 宇多津中学校 13:30～16:30
 - (2) 第2回 10月19日(水) 宇多津北小学校・町立中央保育所 13:30～16:30
 - ① 学び部会(学びの基盤づくり)・意欲的に課題解決するための学びの基盤づくりを行う。
 - ・「もと」や「運動の系統表」で技能や知識の向上を図る。
 - ・家庭学習の習慣化を図る取組を行う。
 - (授業改善)
 - ・学び合い(対話)の連続をつくりあげる「授業改善」。
 - ② なかま部会(人間関係づくり)・時と場に応じた「あいさつ」ができることを目標に実践。
 - ・QUの結果を団で共有し、個別の支援計画により指導。
 - (こころ磨き)
 - ・「黙目清掃とボランティア活動」の評価表の確認と実践。
 - (3) 情報交換部会 保幼小中の関係教職員が集まり、情報交換を年間計画に従い2～4回実施。
 - ① 小1連絡会、② 中1連絡会、③ 就学前部会、④ 健康教育部会、⑤ 特別支援教育部会、⑥ 不登校部会、⑦ 読書指導部会、⑧ 英語教育部会、⑨ ICT部会、⑩ 若年教員研修部会
2. 町連携教員研修
 - (1) 夏季研修 8月2日(火) 宇多津町保健センター4階大ホール 8:40～12:10
 - ① 「人権・同和教育」講演会 町連携事務局主催

演題「人権・同和教育の現状と課題について」

講師：元丸亀市総務部人権課人権・同和教育指導員 甲斐 健太郎 氏
 - ② 「児童虐待防止」講演会 宇多津町保健福祉課との共催による開催

演題「虐待を行う保護者に対する支援」

講師：社会福祉法人旭児童ホーム家庭支援専門相談員 平本 譲 氏

目標達成に向けた今後の課題

1. 実践内容について

教育ソリューションシステムについては最終年を迎え、各プロジェクト及び情報交換部会において可能な限り最高の峰に到達して、次年度からの教育連携につなげることを目指した。
2. 重点課題と改善点
 - (1) 新学習指導要領の大きな改善点である「対話による主体的で深い学び」のある授業や活動の実践が、どの学校・園・所においても定着してきている。
 - (2) 今年度は、『第三次宇多津町教育連携5か年計画』(平成29年～平成33年)の方針を確定するのも大きな課題となっていたが、『宇多津町教育大綱』を支える方針が完成した。

【学識経験者の意見】

- 保・幼から中学校まで、校種の違いを超えて連携し、一体的、総合的な取り組みは、宇多津町教育の独自性を示すものであり、大きな成果を挙げています。
- 28年度から若手教員研修会が新たに設置されました。若手教員の言動と指導力に不信感を持つ保護者が多いことを考えると、部会の設定は適切です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (1) 夢と目標を抱かせ人間力を高める連携教育の推進 |
| 事業内容 | ②保・幼・小・中の連携した英語教育・外国語活動の推進 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 「教育課程特例校（英語活動・英語教育）」の指定の最終年（H26. 4. 1～H29. 3. 31）
 - (1) 3年間の成果をまとめた『英語を使う楽しさを味わう子どもの育成』を発行
 - ～保幼・中との接続、小小連携を大切にした小学校での実践
 - ①授業づくり
 - ・自分のことを表現する、友達のことが聞けるコミュニケーション活動を重視した授業。
 - ・中学校で音声から文字への円滑な接続できるよう、文字・文法への抵抗感をなくす授業。
 - ・児童が充実感・満足感がもてるよう、単元・本時で身につける力を明確にする授業・
 - ・歌・チャンツ・絵本を活用した授業。題材が変わっても応用できるゲームの工夫。
 - ②授業外で英語を使って交流する場の設定
 - ・小小交流・・・6年春の校外学習で、両小学校間での自己紹介。
 - ・異学年交流・・・6年 9月異学年グループ結成時における自己紹介。
 - ・外国の人との交流・・・6年 修学旅行。 中3 ニュージーランド派遣。
 - ・小中交流・・・6年 入学説明会時の中学生によるスピーチ。
 - ・保幼小交流・・・1年 体験入学時の英語であそぼ。
 - ③人の連携・交流
 - ④ものの連携・交流
2. 「教育課程特例校（英語活動・英語教育）」の変更申請の提出

本年で終了する「教育課程特例校」の指定を、学習指導要領で1、2年生で英語活動が始まるまでに期間延長を申請し、平成28年度12月21日付けで文部科学省より承認される。

目標達成に向けた今後の課題

1. 「教育課程特例校（外国語活動）」の3年間の成果
 - 「保幼小中で一貫した英語活動の取組」を通して、『英語を使う楽しさを味わう子どもの育成』を目指してきた。
 - 英語を使う楽しさが味わえる発達段階に応じた授業づくりを中心に実施し、「宇多津町小学校外国語活動」Can-doリスト」を作成し、学年ごとの年間指導計画や指導案を充実させた。
 - 保幼小中の滑らかな接続を実現するための取組や中学校でのオールイングリッシュの授業実践も実施し、英語を使う楽しさを味わう子どもが育ってきている。
2. 「教育課程特例校」の変更申請は、期間延長申請で、3年間ではなく無期限とした。

【学識経験者の意見】

- 教育課程特例校の指定を受けた3年間の多様な活動と成果は著しいものが感じられます。
- 楽しく身につく英語の実践は、県内他市町のモデルとして、先進的創造的であり、成果は高く評価されます。
- 次年度以降、更に外国語（英語）が、教育で盛んになるので、この計画を基礎に成果をあげてほしいと思います。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (1) 夢と目標を抱かせ人間力を高める連携教育の推進 |
| 事業内容 | ③情報教育の推進 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 28年度町教育連携にてICT部会 6/30、12/2、2/21 3回開催
タブレットなどのコンピューターを活用した授業の充実や校務ソウトの活用による業務改善について、検討
2. 28年度取組み
 - ① 各校のタブレットの活用について情報交換
・実践の共有化を図った。
 - ② 校務支援について
・EXCELを使った指導要録学籍の枠を作成し使用する。
 - ③ 中学校のコンピューターを更新した。
3. 次年度以降の取組み
 - ・指導要録学籍のEXCEL活用
 - ・情報モラルとICTリテラシーの年間計画については、次期学習指導要領の改訂に向けて、見直しを図り改善するとともに小中の接続がスムーズになるよう情報の共有を図る。
 - ・データの共有、校務の効率化等に向けたICT活用について情報交換の実施。

目標達成に向けた今後の課題

1. 政府は、2020年までに、児童生徒全員にタブレット端末を配置促進を掲げている。
2. 本町としては、H26年度に宇小、北小がパソコンリース切替え、タブレットパソコン導入
中学校H28年度タブレット等更新
3. 町教育連携にて、ICT部会を立ち上げ、各学校担当がタブレットなどのコンピューターを活用した授業の充実など教育の情報化に取り組んでいる。

【学識経験者の意見】

- 町内各校の情報の共有化と情報教育機器の更新による施設の近代化、情報教育技術の向上に積極的に取り組んでいます。
- 教育機器を活用して授業の効果をあげたり、情報収集したものを、指導に反映したり、事務処理を簡便化したりすることは、今後ともに重要なことです。しかし、現在の教育情勢の中でいちばんの問題は、児童や生徒への情報教育ではないかと思われます。児童や生徒への情報教育は、家庭との連携のうえで、どう進めていくか、今後の対策が迫られているのではないのでしょうか。
- 情報教育については、機械に使われない人間になるようにしていただきたいと思います。わずらわしさというものがあるって、上手く活かされないということがあります。それにあつたものを選択することが大事です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (2) 安心・安全な学校づくり |
| 事業内容 | ①実践的な防災教育の実施と防災力の向上 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 研修

(1) 教職員研修

・シェイクアウト（県民一斉地震防災行動訓練）や避難訓練を実施する前に共通理解と事前指導について話し合っている。また、職員会等で危機管理マニュアルを元に共通理解したり、適時ニュースや新聞記事等を活用して、いつでも対応できる心構えと危機管理に努めている。

(2) 教職員の共通理解のために

・日赤の救急救命士や坂出消防署の方を講師に招いて、心肺蘇生法、AED、エピペンの使用について実技研修を実施している。また、その後実際のプール事故を想定した訓練を実施。

2. 防災教育 幼・小・中ともに11月4日のシェイクアウトに参加。（北小は1日に実施。）

幼稚園：防災頭巾の被り方、煙カーテンの実技、「防災ダック」のゲームを使って大規模地震を想定した避難訓練や火災を想定しての避難訓練等を実施した。

宇 小：1階が浸水したことを想定し、2階に避難させたり、学校開放日に地区別の教室に集合して、保護者への引渡し訓練や、不審者を想定した訓練では、坂出警察署や県警教育隊の方に指導していただいた。その際に、町で購入した防災頭巾（タタメット）を使用した。

宇北小：坂出警察、宇多津交番、交通指導員の方の協力を得て、4年生を対象に自転車の乗り方指導をしたり、坂出警察や県警の「学びの支援隊」の方を招き、不審者を想定した訓練を実施。

宇 中：9月と1月には予告済の避難訓練を実施。9月は地震想定、1月は火災想定。また、9月には町支給の防災頭巾を使用した。南海トラフ巨大地震への備えの意味では、生徒にも教職員にも予告しない訓練も必要と考えている。

目標達成に向けた今後の課題

1. 定期的な訓練での特徴的な取組や工夫点

・各校・園においては多様な場を設定した訓練が、専門家等を招いて工夫を凝らして実施されてきている。こうした日ごろからの訓練が、本番での動きを左右すると考えられる。

・今年度町より幼稚園児等には防災頭巾が、小学生から中学生までには防災ヘルメットが支給されたが、その活用についても避難訓練の中で実施されている。

2. 新たな課題

・今年度、各学校（避難所）に県より避難所用の備蓄米・水等が配布され保管されているが、その活用法や管理等を含めて、避難所の運営という点でも、教職員の共通理解を深める必要がある。

【学識経験者の意見】

- 町内の各校が独自の防災教育と、避難訓練を実施し、即応体制がとられています。
- 11月4日の防災教育は地震が主となっていますが、津波を加味した実践が必要です。
- 「防災教育」については、「防災」と「防犯」との区別は明確にする必要があります。
- それぞれの専門家の方に学校へきてもらって防災の訓練をすることは、児童生徒への印象も強くなり、意識も高まっていきます。また、町支給の防災ヘルメットや防災頭巾の有効活用を。
- 避難所としての学校施設等の利用方法や課題については、今から考慮すべき事項です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (2) 安心・安全な学校づくり |
| 事業内容 | ②問題行動等の防止 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 文部科学省による調査から

| | 暴力 | 対教師 | 破損 | いじめ | 解消 | 不登校 | 解消 | 指導中 | 自殺 | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|------------------|
| (1)小 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 9 | 8 | 1 | 0 | 調査結果数は左記のとおりだった。 |
| 中 | 8 | 0 | 1 | 6 | 6 | 19 | 10 | 9 | 0 | |

(2) 結果から見えること

・数的には多くないが、この裏には学校における懸命な努力があり、この数字に留まっているというのが実態だと考えられる。

2. 生徒指導に対する施策

(1) 校内の組織的努力

- ①教職員が一体となって、未然防止と早期発見・早期対応の取組や家庭・地域社会等の理解を得て、地域ぐるみでの取組を推進している。
- ②「チーム学校」の構築・・・県費教職員だけでなく、学校には町講師・支援員等のほかにSC・SSW・SSTなどが配置されている。こうした専門家が役割を発揮して対応する。
- ③地域からの連携として、民生委員・児童委員や育成センターの協力も得ている。

(2) 外部専門家を活用した連携による対策

- ①暴力行為や自殺等については、警察等の関係機関と連携した取組を推進し、毅然とした指導を粘り強く行うなどの対応を行っている。
- ②事案によっては、児童相談所や中讃保健事務所、家庭支援センター等による、家庭全体への支援も必要な場合もあり、総合的見地からの取組を推進することが必要になる。
- (3) 他団体との協働による対策・・・2. (7)③「サポートチーム連携協議会」④「宇多津町虐待防止ネットワーク協議会」

目標達成に向けた今後の課題

1. 問題行動等の把握・・・各学校からの「月別生徒指導に関する状況調査」

各学校からは、生徒指導上の問題が起きた場合、重要な事項については電話の後、「速報」で上ってくる。また、毎月「状況調査」が実施され、全体的な詳細が記入され報告される。

2. 最近の特徴とそれへの対応

- (1) 発達障害を抱えた幼児児童生徒による問題行動への対応に追われることが多くなっている。
- (2) それに対しては、県のSSWによるスーパービジョンなども要請して対応している。
- (3) 同時に、医療機関の診断を受け、必要によっては服薬等による対応も受けることもある。

【学識経験者の意見】

- 不登校について、専門員を配置し、その解消に積極的に取り組んでいます。
- 28年度県内の不登校（小学生166、中学生803）から推計すると、宇多津町（小学生9、中学生19）は少し気がかりです。新たな不登校を生まない取り組みを期待したいと思います。
- 発達障害特有の言動への対応として、医療機関の診断・服薬等適切な支援を受けています。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (2) 安心・安全な学校づくり |
| 事業内容 | ③学校情報・地域情報配信の充実 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. メール配信の登録 平成28年度メール登録件数 2,061件
 - ・町立の幼稚園、小中学校の保護者及び学校関係者に、毎年4月又は随時にメール配信（変更）登録を呼びかけ、手続きを行う。
2. 不審者情報の配信
 - ・県警本部からの「子ども安全情報」の提供があれば、教育委員会から不審者情報の配信を行う。
 - ・香川県警察ヨイチスマートメールに登録し、より情報の収集に役立っている。
 - ・宇多津町福祉事業の一環として、認知症などの高齢者の行方不明者が発生した場合の一斉配信にも活用している。
3. 学校からのメール配信
 - ・そのほか災害情報（気象警報等）による登下校時間の変更、臨時休校及び、学校行事等の情報について、教育委員会及び各幼稚園、学校からメール配信する。
 - ・平成28年度メール配信件数

| | |
|----------|------|
| 学校教育課 | 13件 |
| 宇多津幼稚園 | 12件 |
| 宇多津小学校 | 36件 |
| 宇多津北小学校 | 45件 |
| 宇多津中学校 | 26件 |
| 少年育成センター | 56件 |
| 計 | 188件 |

目標達成に向けた今後の課題

1. 毎年更新時期に学校に出向き、情報配信登録の手続きの補助や質問を受け付けており、登録率は上昇している。
2. 昨年度の有効利用で活用中のヨイチスマートメールについても、多くの情報を得られ対応できている。
4. 平成29年度にむけて、情報配信業者の契約の見直しがあり、登録者に不便のないように移行と現在よりも操作等簡単にできるように、検討していくことを課題としている。

【学識経験者の意見】

- 不審者情報・災害情報が時宜適切・迅速になされ、「安心安全の町づくり」にいつそう役立っています。
- 不測の事態に備えた対応の仕方を検討しておくことが重要です。
- 情報の受信や発信は、以前に比べて格段に多くなってきていることと思われませんが、それをどのように行動に移行させて、事故を未然に防ごうとするのかという活動化の面では、努力のあとが見られます。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (3) 健康教育の推進 |
| 事業内容 | ①安全・安心な学校給食の実施 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

○食物アレルギー対応

1. 新入生の対応

就学時健康診断にて、保護者宛に調査票を配布し、アレルギー有無を把握し、給食対応の希望をとる。希望者には関係者による個人面談を行い、医師の診断書を提出してもらう。

2. 個人面談の決定事項から

①除去食（完全除去、調理過程による除去、非加熱食品の除去）

②代替食によって献立を作成する。

3. アレルギー対応食指示書（栄養教諭作成）により、

栄養教諭、調理委託業者で打合せを行い、対応食について確認を行う。

4. 委託業者への確認作業

必要な食材を購入し、誤配食、誤配送の無い様に確認作業を行う。

5. 保護者への対応

予定献立表を配布し、最終確認を行う。

6. 対象者数（平成29年3月31日現在）

中央保育所 7名、宇多津幼稚園 10名、宇多津小学校 8名

宇多津北小学校 20名、宇多津中学校 11名 計 56名

目標達成に向けた今後の課題

1. アナフィラキシーショックに対応するため、エピペンの取り扱いについて、養護教諭より説明を行い、緊急時の迅速な対応を図る。
2. 対象児童について、校内にて情報を共有し、共通理解を図る。
3. 他の児童への理解を進める。
4. アレルギー対応食提供者数が増加傾向にあり、一定の対応を行うため、マニュアルを作成する。

【学識経験者の意見】

- 食物アレルギーに対する入学前対応、入学後の給食対応、委託業者、保護者への綿密適切な対応ができています。
- 除去食と代替食の献立表の作成などの配慮が十分なされています。
- アナフィラキシーショックへの対応の仕方も共通理解ができています。
- 丁寧な指導がなされています。特定の児童の問題だけでなく、食生活全般の中でも扱って、児童生徒への食生活と健康の関係についての意識を高める方向をも目指してください。食事と生活習慣との関係は、将来の健全な食生活の基礎を築くうえで大切です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (3) 食育の推進 |
| 事業内容 | ②生活習慣病の予防促進 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 対象者 小学校・・・4年生(199名) 6月実施
中学校・・・1年生(173名) 6月実施
2. 検査項目と結果
肝機能検査：GOT (AST) ・ GPT (ALT) ・ γ -GTP
脂質検査：総コレステロール・HDL-コレステロール・LDL-コレステロール・中性脂肪
糖尿病検査：HbA1c (酵素法)
貧血検査：赤血球数・血色素量・ヘマトクリット
☆一次検査受診者：小学校181名・中学校158名
観察者(要精検査者)：小学校 31名(5名)・中学校31名(12名)
☆二次検査(冬の元気っ子クラブ時) 受診者：小学校8名・中学校1名
観察者(要精検査者)：小学校4名(0名)・中学校0名
3. 個別指導の必要な児童について
 - ・懇談時に保護者と生活習慣の改善を話し合う。
 - ・夏休みに開催した元気っ子クラブは香川短期大学生活文化学科の協力で28名の参加により児童は運動指導、保護者は間食指導、親子で調理実習【キーマカレー、夏野菜サラダ、お茶ゼリー】、その後にエプロンシアター、食育模型を使った食事診断など、短大生も実習と兼ねた場となった。
 - ・冬休みの元気っ子クラブは町保健センター会議室で講話【養護教諭による保健指導】調理室では、【親子できんぴらバーガー、冬野菜みそ汁、牛乳かん】を6人の親子で調理した。

目標達成に向けた今後の課題

1. 昨年度の課題同様、参加率がやや少ない。夏に行った香川短期大学とのコラボは非常に良かった。次年度については、開催を年に1回にし、主催者側も色々な視点から情報や協力を得て、ワンパターンにならないよう、工夫をしたい。
2. 今年度の冬休みに行った元気っ子クラブでは、養護教諭による【おやつや間食の見直し、冬規則正しい生活習慣を送る等】の講話を親子で参加してもらったことは非常に良かった。

【学識経験者の意見】

- 生活習慣病対策事業が第一次検査、第二次検査の実施によって、徹底してなされており、その結果のフォローも個別指導、生活改善など、徹底してなされています。
- この結果について、他市町と比較して、これはどの程度の位置にあるのか、明示していただきたいと思います。
- 生涯学習の一環として、食育の指導は極めて重要ですから、家庭における指導について、もっと積極的に保護者に分かりやすい資料等の配布や、保護者への関心を高めるべきです。
- 短大生との協力による調理実習等は、関心を集めるうえで効果的で良かったと思います。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (4) 教育施設的环境整備 |
| 事業内容 | ① 学校諸施設の整備・充実 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

校舎等工事及び環境整備

| | 工事名・概要 | 工事費 (円) |
|-----------|---|--------------------|
| (宇多津幼稚園) | 遊具取替工事 低鉄棒3段1基、ステンレス4人乗りブランコ1基及び安全柵両面1基 | 1,077,840 |
| (宇多津北小学校) | トイレ改修工事 校舎職員用トイレ、体育館トイレ、プールトイレ | 19,965,960 |
| (宇多津中学校) | 手洗いシンク設置工事 南校舎3階廊下 防犯カメラ取替え工事 可動カメラ1台、固定式カメラ2台 | 928,800 648,000 |

目標達成に向けた今後の課題

- 今後、地震等災害対策に向けて、非構造部材防止対策が必要。移動防止工事等。
- 今後必要とする改修箇所等
学校や地域整備課の意見を聞き、幼稚園、小中学校の大規模改修工事等の優先順位を決定
 - 宇多津幼稚園: トイレ改修、ロッカー改修、上水道配水管改修
 - 宇多津小学校: プレイルーム屋根防水等改修、給配水管等老朽改修工事実施設計委託、
 - 宇多津北小学校: 校舎外壁・屋根改修 体育館外壁・屋根改修
 - 宇多津中学校: 外壁工事、教室テレビ(モニター)改修工事

【学識経験者の意見】

- 計画的に防災対策工事が適切に進められています。
- トイレの様式化など、学校設備の更新が時代のニーズに応じています。
- 幼・小・中の教育施設が徐々に改善されつつあるのは、極めて嬉しいことです。
- この間、雨が降った後で宇多津小学校の運動場を歩いて、幼稚園へ行った時、小学校の運動場の東側の一部の排水が極めて悪く、歩行も困難なほどでした。宇多津小は広い運動場が県下に誇れる施設ですから、早く補修改善していただきたい。
- 宇多津小学校の幼稚園の駐車場につながる近辺の排水をお願いしたい。雨の後など、ぬかるむほどの状態になっています。宇多津小学校のせつかくの長所ですから、良さを生かすことができるようにしていかなければいけません。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (4) 教育施設的环境整備 |
| 事業内容 | ② ICT化の促進 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- 28年度町教育連携にてICT部会 6/30、12/2、2/21 3回開催
タブレットや電子黒板などのICT化の促進を実施

- 28年度取組み
・中学校タブレット(30台)、印刷機(4台)の更新

- 各施設ごとの現状
・ハード

| | デスクトップ | ノート | タブレット | 印刷機 | 大判プリンター | 画像カメラ | プロジェクター |
|------|--------|-----|-----------|-----|---------|-------|---------|
| 小学校 | 4 | 38 | 62 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| 北小学校 | 44 | 47 | 28 | 4 | 0 | 2 | 2 |
| 中学校 | 41 | 43 | 30(内3台更新) | | 1 | 0 | 0 |

- ・ソフト

| | タブレット用 | 共同学習 | ワープロ | ホームページ | 授業支援 | グループウェア | その他 |
|------|----------|------|----------|--------|---------|---------|---------|
| 小学校 | ジャストスマイル | ベネッセ | ジャストシステム | ふれあい通信 | — | — | |
| 北小学校 | ジャストスマイル | ベネッセ | ジャストシステム | — | ネットウィッチ | — | |
| 中学校 | ジャストジャンプ | — | 一太郎プロ | ビルダー | スカイメニュー | ミライム | フィルタリング |

目標達成に向けた今後の課題

- 政府は、2020年までに、児童生徒全員にタブレット端末を配置促進を掲げている。
- 本町としては、H26年度に宇小、北小がパソコンリース切替え、タブレットパソコン導入
H28年度中学校タブレット導入
- 町教育連携にて、ICT部会を立ち上げ、各学校担当がタブレットなどのコンピューターを活用した授業の充実など教育の情報化に取り組んでいる。

【学識経験者の意見】

- 宇多津町のICT機器の整備は、県内の他の市町に先駆けて、新規設置又は更新がなされていて、時代の進化に即応できるように努めています。
- ICT機器の整備は、それに通じたよりよい指導者が必要です。適切な配置を望みます。
- 情報化時代ともいわれる現代において、先進的な情報機器を有効に活用することは望ましいことです。しかし、大切なことは教育の基本を忘れることなく、機器に振り回されることのないように。また、機器の活用が不適切な使用によって、姿勢、視力等に悪影響がないように留意することです。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (5) その他 |
| 事業内容 | ①いじめ防止等対策委員会の実施 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

宇多津町いじめ防止条例に基づき、いじめ防止対策等委員会を開催

平成27年度宇多津中学校美術部の生徒によりいじめ防止のポスターを作成し、そのポスターの標語を生徒から募集しポスターを作成したものを掲示

1. 宇多津町いじめ防止等対策委員会の開催 平成28年8月26日

(1) 委員の構成 委員4名

(2) 内容

①小中学校のいじめ防止の取り組みと現状について

2. 平成28年度のいじめの発生状況

宇多津小学校 1件 6年

宇多津北小学校 1件 3年

宇多津中学校 6件 1年4名、3年2名

目標達成に向けた今後の課題

各校で「いじめ防止基本方針」によりいじめ防止に取り組んでおり、いじめは減ってきているように見えるが、なお次の点について留意していきたい。

- いじめはどの子どもにも起こり得るということを踏まえ、未然防止の徹底を図る。
- 普段の学校生活や生活アンケートなどで、いじめの兆候となるものを見逃さず、早期の発見、早期解決を図る。また、アンケートのとり方についても、子どもが正直に書きやすいように常に見直しをしていく必要がある。
- 不登校やぎみになっている児童生徒への対応、原因の把握。

【学識経験者の意見】

○ いじめの発生件数が県内他の市町に比して最少件数になっているのは、防止対策に積極的に取り組んできた成果と考えられます。

○ いじめ防止条例ができたのはたいへん結構です。その実行にあたっては、①子どもや生徒と接する教師が、早く対応すること、そのためには、児童生徒をよく観察していること、②担任教師だけで処置しようとしなくて、職員同士で相談できる体制を作ること、③何よりも学校内の、児童同士の相手を尊重しあう雰囲気がある学級経営ができていないこと、④不登校児童に対してもそうですが、家庭との連携が大切です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (5) その他 |
| 事業内容 | ②就学前健康診断事前アンケート（成長シート）の実施 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 「私の成長シート」の実施

- ・公立の保・幼・小と教委が連携をとり、4月に26年度の反省と27年度計画について事前打ち合わせを行った。
- ・5月には、公立私立の保・幼の年長の担任と小・中の特別支援教育コーディネーターと町教委が集まり、昨年度の取組み状況と、28年度の計画及び就学指導委員会の資料作成等について検討した。
- ・昨年度から引き続き28年度入学児童にかかる就学指導として、6月初旬に「わたしの成長シート」を配布。

2. 実施結果

- ・28人の保護者より、相談希望があり、22名について7月、8月、9月に教育相談を実施した。
- ・また、各所、園が就学指導委員会の資料作成し、説明もできた。結果、各児童の状態に沿って、特別支援学級に4人、通級による指導教室に1人支援することができた。

3. 進捗度

予定通り進行している。

目標達成に向けた今後の課題

10月の就学前健康診断において、問題行動のある子どもがまだ少数見受けられ、そこから学校より保護者へ連絡して、教育相談等につなげているが、就学指導委員会に間に合わないため、今後、できるだけ早い時期に巡回訪問し、対応していくことが必要。

【学識経験者の意見】

- 就学前の「私の成長シート」の配布は、入学前指導として、保護者の不安、心情を率直にうかがえる上で、画期的な取り組みです。
- 「私の成長シート」を実施した後、保護者から積極的に教育相談を希望してくる方式は、押し付けでなく自主的で、今後につながる良い方法と言えます。
- 「私の成長シート」を配布などして、就学指導に配慮している方法を。今後も続けてください。
- 保護者と教育相談をしていることもたいへん重要なことですが、どのようなことで問題がありそれをどのように指導していこうとしているのか、その内容についても記述していただきたい。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------|
| 施策目標 | 1. 活力ある学校教育の推進 |
| 施策項目 | (5) その他 |
| 事業内容 | ③教育相談 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 目的 特別支援学級（学校）に通う児童・生徒及び保護者、発達障害やその疑いのある児童・生徒及び保護者、発達に気がかりな幼児等の保護者等を対象に、園（所）・学校・家庭が連携し、幼児・児童・生徒の心身の発達に寄与することがねらい。
2. 年間回数
 - (1) 月1回を原則に、年間13回（5月開始、5・8月のみ月2回）実施。4人程度/回。
 - (2) 8月2回分は、今年は就学相談対応にした。・・・前項の「成長シート」によって、教育相談を希望してきた、就学前年長児及び保護者を対象に実施。また、この教育相談以外にも、保健センターの相談員さんに依頼して、全希望者を実施している。
3. 実施体制
 - (1) 月1回、午後1時～午後5時までを原則に、各4人ずつの予約制。
 - (2) 現在12名が継続で年間予約し、学期に1度の割りで相談を受けている。
 - (3) 毎回、原則第1番目の枠13：00～14：00を「新規枠」として確保し、対応している。
4. 相談員委嘱者 松本 矩子 先生
 - (1) 所属 発達相談室「まつもと」
 - (2) 資格 言語聴覚士、特別支援学校教員免許
5. 他機関との連携
 - (1) 所属の園（所）・学校
 - (2) 医師、施設等の専門機関

目標達成に向けた今後の課題

1. 相談者の減少に対して
今まで広報による呼びかけは実施しなかったが、今年は実施した。しかし、効果はあまり見られず、保育所の先生方からの宣伝が功を奏して、登録数が増加してきている。
2. 今後の課題
8月に実施している「就学時相談」で申し込んできた幼児と保護者への働きかけを行い、継続的な支援へとつなげることができればと考えている。

【学識経験者の意見】

- 最も相談を必要とする人への専門員による適切な支援がなされています。新たに相談を必要とする人への「新規枠」の設定は妥当な方法です。
- 単発の相談が可能になると、なお相談しやすくなります。
（事務局：日常的な「電話による相談」や「窓口に来ての相談」については、その都度応じています。）
- 広報等による呼びかけよりも、保護者への直接の働きかけの方が効果的ですから、手数はかかりますが、声をかけて話し合うことが重要です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (1)子どもたちの自尊心を育む環境づくりの促進 |
| 事業内容 | ①子ども会の育成 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|--|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 町補助金 | 年間300,000円 収入886,147円 支出717,716円 |
| 2. 加入者数 | 幼児：26名 小学生：213名 中学生：9名 育成者：162名 合計：410名 |
| 3. 町子連実施事業 | <p>平成28年4月26日 平成28年度総会</p> <p>平成28年6月12日 ニューソフトバレーボール大会) 56名</p> <p>平成28年6月26日 田植え体験教室(協力：うたづ遊友健康づくりの会) 40名</p> <p>平成28年7月31日 親子ふれあいデイキャンプ) 110名</p> <p>平成28年8月21日～22日 一泊キャンプ(協力：香川大学野外活動部) 20名</p> <p>平成28年10月16日 稲刈り体験教室(協力：うたづ遊友健康づくりの会) 50名</p> <p>平成28年10月22日 太鼓台運行事業 70名</p> <p>平成28年11月6日 海上親子防災教室 50名</p> <p>平成28年11月20日 ドッジビー大会 102名</p> <p>平成28年12月26日 もちつき大会(協力：うたづ遊友健康づくりの会) 100名</p> <p>平成29年2月26日 わくわくイベント 50名</p> <p>平成29年3月23日 新旧育成会長会 25名</p> |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|--------------------|--|
| 1. 組織について | <p>子ども会加入者数は213名(昨年度246名)であり、全体は410名(昨年度446名)となっている。</p> <p>また、単位子ども会数は2単位減少(浜五番丁、坂下東が解散)し、8単位になった。</p> <p>現在の募集手段は、町広報誌、幼・小へ壁新聞、年度初めに募集チラシを配布している。</p> <p>毎年確実に会員数が減少しており、魅力的な増加対策を講じる必要がある。</p> <p>今後は結成の話をチラシに盛り込み、新規増加を図る予定である。</p> |
| 2. 子ども会育成連絡協議会について | <p>単位子ども会活動促進を図るための補助金制度(上限2万円)は7単位から申請があった。</p> <p>事業の実施に当たって負担を軽減することで、活動の活発化を図る。</p> |
| 3. 単位子ども会活動内容 | <p>鍋谷：歓送迎会65名 卒業生挨拶や、入学・進級祝(鉛筆や図書カード)、食事会</p> <p>浜六番丁：6年生を送る会39名 ラウンドワン高松店での遊び</p> <p>県営：歓送迎会約40名 カレー、ビンゴゲーム、入学・進級祝(鉛筆や図書カード)</p> <p>坂下西：歓送迎会15名 獅子舞活動の慰労で、キッズニア甲子園、南京町</p> <p>網の浦：クリスマス会37名 こめっせ宇多津でキャンドルワークショップ等</p> <p>津の郷：クリスマス会25名 丸亀スターボウルでクリスマスケーキとボーリング大会</p> <p>田町：親子ボーリング大会30名 坂出中央ボウルで上位に景品、その後昼食</p> |

【学識経験者の意見】

○ 宇多津町の子ども会は多彩な行事や体験を組み、充実した内容です。県内最高の取り組みです。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (1)子どもたちの自尊心を育む環境づくりの促進 |
| 事業内容 | ②寺子屋 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 実施日時及び会場 | <p>前期日程：平成28年7月28日（木） 南隆寺 29日（金） 宇夫階神社 後期日程：平成28年8月 1日（月） 西光寺 2日（火） 西光寺 3日（水） 宇夫階神社</p> |
| 2. 実施事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・坐禅・写仏体験教室 ・英語寺子屋 ・鎮守の森を守ろうポスター、標語作成 ・食にまつわる話 ・科学体験教室 ・香川大学連携事業 |
| 3. 参加人数 | <p>①申込者 宇小24名（31名）、北小33名（46名） 計57名（77名） ②延べ参加者 宇小68名（94名）、北小107名（102名） 計175名（196名） 括弧内は前年度実績値</p> |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|---|
| 1. 会場について 町内の寺社に会場協力の可否について問合せを実施。宇夫階神社、南隆寺、本妙寺、西光寺の4寺社が対応可との結果。次年度以降も可否を確認し、会場決定する方針。 |
| 2. 実施事業について 学校・地域の方々による協力の下、様々な内容を学ぶことができる場となっている。郷土学習のほか、夏休みの宿題に活用できる事業を計画・実施する方針。 |
| 3. 参加人数について 昨年度と同じ5日間の開催であったが、6年生参加者の減少により延べ参加者が減少した。 |

【学識経験者の意見】

| |
|---|
| ○ 地域密着型の宇多津町の特色ある社会教育。 |
| ○ 地域の人材を活用して独自の文化を学び、人間性の育成を図る独自性のある取り組みです。 |
| ○ 長く続いてきている活動ですから、そろそろ卒業生が戻ってきて運営に携わるなど、層の厚みを期待したいものです。 |
| ○ たいへんユニークな行事で、宇多津町ならではの地域性を生かしています。日程など、学校とも打ち合わせて、学校行事と重ならないよう配慮してください。 |
| ○ 宇多津小学校と宇多津北小学校の児童と一緒に参加できる機会は、他にあまりないので、今後ともぜひ続けていただきたいと思います。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (1)子どもたちの自尊心を育む環境づくりの促進 |
| 事業内容 | ③子ども議会 |

| 平成28年度実施内容 | | | | | | | |
|--|--|------------|----------------------------|-------|-----------------------|------|-----------------------|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | | | | | | | |
| 1. ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・宇多津町議会の仕組みと自分たちの生活との関わりを模擬議会を通じて学ぶ。 ・教科、総合的学習のまとめとして、自分たちが調べたことや考えたことを質問し提案することで、よりよい町づくりに参加する。 ・町の最高議決機関である宇多津町議会を体験することで自分の町への愛着をより深くする。 | | | | | | |
| 2. 実施日時 | 平成29年2月13日(月) 15:00~16:30 | | | | | | |
| 3. 参加者 | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">議員、役員役児童生徒</td> <td style="width: 15%;">小学校 6名、北小学校 8名、中学校 6名</td> </tr> <tr> <td>傍聴者児童</td> <td>小学校 6名、北小学校 9名、中学校 2名</td> </tr> <tr> <td>引率教諭</td> <td>小学校 2名、北小学校 2名、中学校 2名</td> </tr> </table> | 議員、役員役児童生徒 | 小学校 6名、北小学校 8名、中学校 6名 | 傍聴者児童 | 小学校 6名、北小学校 9名、中学校 2名 | 引率教諭 | 小学校 2名、北小学校 2名、中学校 2名 |
| 議員、役員役児童生徒 | 小学校 6名、北小学校 8名、中学校 6名 | | | | | | |
| 傍聴者児童 | 小学校 6名、北小学校 9名、中学校 2名 | | | | | | |
| 引率教諭 | 小学校 2名、北小学校 2名、中学校 2名 | | | | | | |
| 4. 町関係役職の登壇者 | <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">小学校</td> <td style="width: 15%;">町長、まちづくり課主任、保健福祉課長、生涯学習課主事</td> </tr> <tr> <td>北小学校</td> <td>町長、地域整備課係長</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>町長、住民生活課長</td> </tr> </table> | 小学校 | 町長、まちづくり課主任、保健福祉課長、生涯学習課主事 | 北小学校 | 町長、地域整備課係長 | 中学校 | 町長、住民生活課長 |
| 小学校 | 町長、まちづくり課主任、保健福祉課長、生涯学習課主事 | | | | | | |
| 北小学校 | 町長、地域整備課係長 | | | | | | |
| 中学校 | 町長、住民生活課長 | | | | | | |
| 5. 質問内容 | <ul style="list-style-type: none"> ①外国人に優しいまちづくり ~宇多津町に住む外国人に優しいまちに~ ②あらゆる世代の人が集まる公園に~安全・清潔・楽しい~ ③交通安全表示の増加について | | | | | | |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|---|--|
| 1. 質問の内容の具現化とそこでの学び | <ul style="list-style-type: none"> ①は外国人が町内に450人住んでおり増加している実態から外国人に優しいまちを目指しての質問。外国人が日本文化や町内の行事について知ってもらったり、参加してもらえるような取り組みや、逆に住民が外国の方を知る取り組みについての提案。 ②は町の未来について考える授業を活かして、町内の公園が安全・清潔・楽しく利用できるように提案。 ③は、交通安全意識を高めるための交通安全表示への提案。 |
| 2. 今回の質問は、普段の学習や生活の中で考えたことを児童会、生徒会でまとめ、写真やパネルを利用し分かりやすく、質問よりも提案に重きがあった。 | |
| 3. 課題として最初の質問で4名が答弁するなど少し長かったので、次年度からは質問や提案を絞るようにしたい。そして、子ども達の自尊感情や自己有用感を高めるため、提案のあったことが少しでも実現できるよう努力したい。 | |

【学識経験者の意見】

| |
|--|
| ○ 子ども議会は地方自治を身近な問題として関心を高め、参加と体験を通して学ぶ絶好の機会として有意義です。 |
| ○ 当日の様子をビデオにして、あとで参加できなかった児童生徒等、みんなで学習するのも1つの方法です。 |
| ○ 児童生徒が町政に関心を持ち、郷土を愛する気持ちを高めるうえで、意義のある行事です。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (1)子どもたちの自尊心を育む環境づくりの促進 |
| 事業内容 | ④成人式 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 日時 | 平成29年1月8日（日） 13:30～14:00 |
| 2. 場所 | ユープラザうたづ |
| 3. 参加人数 | 男性65名、女性58名 計123名（案内送付数は男性110名、女性107名、計217名） |
| 4. 内容 | 町長式辞、来賓祝辞、成人者代表の誓いのことば、恩師の先生方からのメッセージ動画 |
| 5. 費用 | 653,343円（記念写真代223,560円、記念品代198,000円、会場使用料106,390円など） |
| 6. 成人式実行委員会 | <p>9月25日をはじめとして、計4回打合せを行った。</p> <p>○担当者役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会（式典等の司会） ・誓いの言葉（謝辞） ・受付（封筒に資料を入れる、受付・配布、来賓に花をつける） ・広報原稿（2月号広報の原稿） ・アトラクション（準備・片付け・操作） ・パンフレット表紙（表紙のデザイン） <p>○アトラクション内容</p> <p>○記念品内容</p> <p>※参考：第1回は2名、第2回は6名、第3回は7名、第4回は8名の新成人が集まった。</p> |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|---|
| <p>1. 参加率の上昇</p> <p>本年度の参加率は57%であり、前年対比9%の減少 雨天であった。</p> <p>2. アトラクションの選定</p> <p>式典終了後に祭典を行い、恩師の先生方のメッセージ動画を上映。作成は新成人で行った。事務局として、新成人の満足する祭典となるように新成人主導のもと支援していきたい。</p> <p>3. 運営</p> <p>この式典を新成人として自立するための一つの節目とし、町の出身者として郷土愛を育むため、より自主的な運営を開催したい。</p> |

【学識経験者の意見】

| |
|--|
| ○ 式典が自主的に運営され、秩序ある式典が挙行され、内容も充実しています。参加者の減少理由を解明することが必要です。 |
| ○ 可能な限り自主的運営にできるよう期待します。 |
| ○ 成人式実行委員会で、当事者の人たちに企画・運営にもかかわるようにしているのは、たいへん良いことです。 |
| ○ 準備会を、企画委員会と実行委員会とに分けて、もう少し人数を増やすと、全般的により参加への意識が高まるのではないかと思います。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (2) 保護者を対象とした家庭教育の推進 |
| 事業内容 | ① 家庭教育学級 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|--|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 学習機会の効果的な提供 | 就学時健康診断や保護者会、参観日など、多くの保護者が集まる機会を活用した学習機会を作る |
| 宇多津幼稚園 | 6/21 「家庭教育学級並びに給食試食会及び給食参観」 参加者:78名 講演:「頑張り過ぎない子育て」 講師:元坂出市立幼稚園長 三野孝子先生 |
| 宇多津幼稚園 | 9/24 「メンズプレイデー」 参加者85名 講演:「親子ふれあいタイム」 講師:宇多津小学校校長 横山新二先生 |
| 宇多津小学校 | 10/20 「平成28年度入学周知会、家庭教育学級」 参加者:70名 講師:県職員 家庭教育担当 |
| 宇多津北小学校 | 10/27 「平成28年度入学周知会、家庭教育学級」 参加者:110名 講師:県職員 家庭教育担当 |
| 宇多津中学校 | 1/20 家庭教育学級講演会 参加者370名 講演:「思春期の君たちへ」 講師:明治国際医療大学看護学部看護学科 准教授 深田 實江子氏 |
| 宇多津幼稚園 | 2/7 保育参加(春の市)及び家庭教育学級 参加者:75名 講演:「中学生になるまでに」 講師:宇多津中学校校長 行成聡先生 |
| 宇多津幼稚園 | 2/17 「いのちの誕生」出前講座 参加者:65名 講師:ぼっこ助産院 田中幸子先生、篠原佐智子先生 |
| 2. 家庭教育の啓発 | |
| (1) 早期一斉ラジオ体操 | ・日時:夏休み7/21~8/31 朝6時30分~ラジオに合わせて約10分間 ・場所:町内27会場 ・参加者:1,478人(昨年度は1,440人) ・周知方法:各幼・保・小・中にカードと日程表を配布。町広報誌、自治会回覧 ・目的:決まった時間に起床し、ラジオ体操に参加することにより、規則正しい生活を送る。 地域の人や近隣の子どもたちと交流の場を設ける。 |
| (2) 広報啓発冊子 啓発ポスターの配布 | ・「3歳児のいいところミツケ」 「今こそ家庭教育」等 |
| (3) 広報誌による「家庭教育啓発月間」広報 | ・7月号にて家庭教育啓発月間(7月、8月)である記事を掲載する |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会全体で、人間関係が希薄になる中、親子の育ちを支える機会が少なくなっている。こうした環境のもと「豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実」を積極的に進める。 ・婦人会による親子料理教室などの新事業を計画し、親子で楽しむ機会を作る。 ・従来の就学時健康診断や保護者会、参観日など、多くの親が集まる機会を活用し家庭教育学級を開催するとともに、放課後児童育成クラブの周知会時にも講演を行い、多くの学習の機会を作る。 ・園児や小・中学生の親子を対象に講演会を積極的に進める。 |

| 【学識経験者の意見】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と家庭の連携、「開かれた学校」の実践、各校が必要とするテーマを設定しての主体的な取り組みなど、有意義な家庭教育学級です。 ○ 各学習機会への参加者数が、たいへん多く、すばらしい成果をあげています。この方法で引き続き実施し、多くの保護者が学べる機会にしてください。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (3) 人権尊重の知識を養う人権教育の推進 |
| 事業内容 | ① 人権・同和教育 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|--|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 実施事業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 町広報誌に人権・同和教育の啓発記事を掲載（住民生活課） <ul style="list-style-type: none"> 4月：障害者差別解消法 5月：障害者差別解消法 6月：住民の人権意識 7月：住民の人権意識 8月：人権侵害の被害 9月：人権侵害の被害 10月：身元調査について 11月：同和問題の解決 12月：同和問題の解決 1月：外国人も暮らしやすい街づくりを 2月：外国人も暮らしやすい街づくりを 3月：誰もが住みよい街づくりを推進 ・ 8月の「同和問題啓発強調月間」に宇多津町人権・同和教育推進協議会総会及び研修会を開催し、講演会・啓発DVD視聴などの研修を実施。 ・ 町職員への人権・同和教育研修会として、部落開放同盟坂出市連絡協議会議長である大藤正孝氏を講師として招聘し実施。（総務課） |
| 2. その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 香川県人権・同和教育研究協議会の開催する研修会、研究大会に参加 ・ 坂出綾歌企業人権・同和教育推進協議会の開催する研修会に参加 ・ 第63回四国地区人権教育研究大会に参加（高知市） ・ 第68回全国人権・同和教育研究大会に参加（大阪市） |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|---------------|---|
| 1. 啓発対象者について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在行っている研修会の参加者は、教育委員、人権擁護委員を中心とした各種委員の他、企業からの参加者が主なものとなっている。一部の方に限られているため、対象を広くした研修会を実施していく。 |
| 2. 研修の題材について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016年8月5日に実施した研修会では、被差別部落の人々にて行われていた文化を学ぶ研修を実施。「人権文化を考える～福をはこんだでこまわし～」と題して芝原生活文化研究所の辻本一英氏に講演をいただいた。 |

【学識経験者の意見】

| |
|---|
| <p>○ 差別、人権問題について広報誌に毎月掲載して啓発に努めており、職員の研修も適切に行われています。</p> <p>○ 人権意識は、人間が生きるうえでの基本的な問題であるが、それを正面に打ち出すと、どうしても会が硬くなり易い傾向があります。理性に伴う感性に訴えるものとして、すぐれた映画の鑑賞会など、もっと開くべきと考えます。最近の邦画では「あん」、世界の名作ではアメリカ映画の「アラバマ物語」などが最適です。映画の感動に触れながら、人権問題について話し合うなどすると、効果的です。</p> |
|---|

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (3) 人権尊重の知識を養う人権教育の推進 |
| 事業内容 | ②人権作品展 ③人権・同和教育だより |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

② 人権作品展

1. 内容

宇多津町立の保育所・幼稚園・小学校・中学校においては人権尊重の教育を推進しており、その学習成果の一端を展示し、人権尊重への認識を深めるとともに、住民への人権尊重の啓発を行う。

2. 出品者

宇多津町立保育所・幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒

3. 出品物

ポスター、標語、習字、作文、詩、その他軸に貼れるもの

4. 人権展

●人権作品展・・・期間:9月15日(金)～10月2日(月) 会場:ユープラザうたづ エントランス
ホール

広報・周知:広報8月号において、記事を掲載。

●「私の考えを語る会」人権展・・・各園・学校より2作品ずつ展示 日時:10月18日
会場:坂出市民ホール

③ 人権・同和教育だより

1. 内容

坂出市、綾川町、宇多津町で、地域で人権尊重の認識を深めるためにパンフレットを作成する。

2. 作成物

「人権・同和教育だより」を8700部作成し、12月広報にあわせて町内全戸に配布する。

目標達成に向けた今後の課題

『人権展』について

多くの子どもや大人に対して、人権尊重の認識を深めてもらうための掲示の工夫。

『人権・同和教育だより』について

新しい課題やテーマ(新しく成立した法律等)についての関連記事を掲載する。

【学識経験者の意見】

- あらゆる機会を利用して、積極的に人権の啓発に努めています。特に、園児、児童、生徒の作品の展示を通しての啓発は極めて効果的な方法です。
- 宇多津出身者で、人権に取り組んでいる方(方々)を招いて、講演していただくなどすれば、子どもたちにとっては良いモデルになるのではないのでしょうか。
- 展示物やパンフレットの配布なども大切ですが、掲示の仕方が一方的になりやすいものです。それを見た人たちの意見や感想等も知る場を設けると、反響の仕方がより深まるのではないのでしょうか。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-------------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (4)放課後児童を対象とした学習支援・スポーツ活動等の実施 |
| 事業内容 | ①放課後児童健全育成事業 |

平成28年度実施内容 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1 放課後子ども教室（小学3年生～小学6年生）

●スポーツ活動

| 内容 | 場所 | 日 | 時間 | 児童数 |
|----------|--------------|----------------|----------------------------|-----|
| 卓球 | 北小学校体育館 | | | 15 |
| バドミントン | 北小学校体育館 | 毎週水曜日 | 15:30～17:00 | 41 |
| グラウンドゴルフ | 中央公園 | | | 18 |
| ドッジボール | 宇多津小学校プレイルーム | 毎週水曜日 毎週土曜日 | 15:30～17:00 13:30～15:30 | 33 |

●学習

| 内容 | 場所 | 日 | 時間 | 児童数 |
|---------|---------|---------|-----------|-----|
| 宇多津小学校区 | 宇多津小学校内 | 毎週月～金曜日 | 下校後～17:00 | 9 |
| 北小学校区 | 北小学校内 | | | 12 |

2 放課後児童育成クラブ（小学1年生～小学4年生）

| 内容 | 場所 | 開設日数 (年間) | 時間 | 児童数 |
|---------------------|------------|--------------|-------------------------|-----|
| 宇多津放課後 第1スマイルクラブ | 宇多津小学校空き教室 | 276日 | 下校後～18:00 *延長保育19:00 | 32 |
| 宇多津放課後 第2スマイルクラブ | | | | 30 |
| 宇多津北放課後 第1キッズクラブ | 宇多津小学校内 | | | 39 |
| 宇多津北放課後 第2キッズクラブ | 北小学校内 | | | 20 |
| 宇多津北放課後 ジュニアクラブ | 北小学校内 | | | 26 |

目標達成に向けた今後の課題

1 放課後子ども教室

- ・各活動の継続維持・学習アドバイザー（指導員）の確保。
- ・対応困難な児童について、学級担任など学校との連携の強化。

2 放課後児童育成クラブ

- ・児童数に適した場所・指導員数の確保
- ・支援員の資質向上のため研修会受講など積極的に呼びかける。
- ・各家庭からの要望が多様化する中、ニーズに応じた利用料金の見直し。

【学識経験者の意見】

- 児童福祉法の趣旨にふさわしい充実した育成事業になっています。
- 学習アドバイザーの確保や、場所・指導員数の確保等、難しいとは思いますが、何とかお願いします。
- 放課後児童の対策については、他町に比べて配慮がゆき届いています。
- 充実した取り組みだと思えます。「児童福祉法」の精神にのっとった組み立てがなされています。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (5) 挨拶運動並びに積極的なボランティア活動の推進 |
| 事業内容 | ①あいさつ運動 ②QUの取組 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

ソリューションシステム「なかま部会」（コミュニケーションスキル育成プロジェクト報告より。

I. あいさつ運動

- 育てたい子ども像 「人とつながり、思いやることのできる子どもの育成」
- 本年度の目標 時と場に応じたあいさつができることを目標に実践を行う。
- 具体的実践内容・評価方法

| 学校・園・所 | 評価規準 | | |
|-------------|------------------------------|----------------------------|--------------------------------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 |
| 幼稚園 保育所 | 挨拶を返すことができる。 | 仲良しの友達や先生に顔を見て挨拶できる。 | 園内で会った人や地域の人に、進んで顔を見て挨拶できる。 |
| 宇多津 小学校 | 挨拶を返すことができる。 | 仲良しの友達や先生に進んで顔を見て挨拶できる。 | 校内で会った人や地域の人に、進んで顔を見て挨拶できる。 |
| 宇多津 北小学校 | 友達、先生、おうちの人に自分からあいさつできる。 | 同学年の友達や先生に、進んで顔を見てあいさつできる。 | 校内で会った人や地域で会った人に、進んで顔を見て挨拶できる。 |
| 宇多津 中学校 | 授業の始め、終わりの挨拶を、大きな声ですることができる。 | 友達や先生に、進んでさわやかな挨拶ができる。 | 校外で会った人に、進んで礼儀正しく挨拶できる。 |

4. 取組最終年度

この形での「あいさつ」に取り組むのは最後となる。次年度からは、各学校ごとの取組となる。

II. QUの取組

1. QUの結果

QUの分析結果を生かした2学期以降の重点目標と手立てを記入す

ることで、QUの分析結果を2学期、3学期の学級経営にいかすことにした。

- QUの分析方法の研修の実施
- 今後の活用

QU結果から、支援を必要とする児童の把握やその変容を見つめていくことにする。

目標達成に向けた今後の課題

1. 各校の実践、成果と課題から見えてくるもの

- ・ 校園所内では、自ら進んであいさつをしたり、あいさつボランティアに参加したりする児童生徒が増えたが、校外で地域の方にあいさつをするまでには至っていない。校園所で身につけた力を外でも実行するという意識をもたせるため、教師主導ではなく、委員会などを中心にした子ども主体の活動にしていく必要がある。
- ・ あいさつを交わすことで、どんな気持ちになったか交流し合う等、自己有用感を育む場も設定することで、進んであいさつをしようという意欲を高めていくことが大事だ。

2. QUの活用法・・・職員で共通理解していく

【学識経験者の意見】

- 数年にわたって町独自の評価基準によって、挨拶や思いやりの精神を高めてきた効果は大きいように思います。
- 人間関係を高める基本的な行動だけに、この統一基準が終了するのは惜しまれます。
(事務局：統一基準やこの取り組みが終了するということではなく、各学校でこの基準にそった取り組みを今後も続けていくということです。)
- QUの結果だけでなく、別の視点（例えば、「自尊」）で、このことを評価するのもいいと思います。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (5) 挨拶運動並びに積極的なボランティア活動の推進 |
| 事業内容 | ③清掃活動 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|--|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| ソリューションシステム「なかま部会」（こころ磨きプロジェクト）報告より。 | |
| 1. 育てたい子ども像 | 「みんなのために役立っているというやりがいを実感できる子どもの育成」 |
| 2. 本年度の目標 | 他者との関わりを通して、自尊感情や他者を尊重する態度を育てる。 ・黙目清掃 「学校をきれいにして、心を磨こう。」 |
| 3. 具体的実践内容 | <p>(1) 宇多津幼稚園 毎週月曜日の午後を「お掃除デー」と決めて、クラスごとに草抜きや園庭のゴミや石拾い、自分の道具箱の整頓などを行う。自分たちの幼稚園をみんなできれいにすることで、力を合わせてする心や、きれいになると気持ちがいいと感じる心を育てている。</p> <p>(2) 宇多津小学校 「黙目清掃強調週間」を設定し、毎日の自己評価結果をクラス別に集計し、成果の上がっている学級を全校生に紹介した。また、毎月第2木曜日を「愛校デー」として、保護者の方々と清掃を実施している。</p> <p>(3) 宇多津北小学校 清掃委員会が全校に正しい用具の使い方や清掃の仕方についてVTRを使って意識を高める呼びかけをした。また、月末や行事前の「ピカピカデー」では普段できない所をきれいにしたり、清掃委員によるよくできたところを後日放送してたたえている。</p> <p>(4) 宇多津中学校 学期ごとに「清掃強調週間」（早い取り掛かり・無言・時間いっぱい・気づき）を実施し、毎日の目標達成状況を放送することで、生徒の意識の高揚を図っている。二学期には「強調週間」終了後、自分の活動の振り返りと友だちの清掃態度の良さを見つける取組を行った。3学期には、「学年集会」に清掃委員から報告を行い、学年末に向けて訴えを行った。また、「小学校との清掃交流」も実施した。</p> |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|-------------------|---|
| 1. 今年度で終了することへの対応 | ①あいさつ、②Q.U、③清掃活動、④ボランティアは、いずれも今年度までの「保幼小中連携ソリューションシステム」で実施しているものなので、今年度で終了する項目となるもので、次年度からは学校独自の取組となるので、この形での評価は今年度限りとなる。 |
| 2. 次年度からの取組 | この内容に代わって、次年度からは「教員年代別研修」である「若年研修」・「ミドル研修」・「ベテラン研修」の取組となる。 |

【学識経験者の意見】

| |
|---|
| ○ 清掃は学習環境を整える大切な躰教育です。宇多津町教育の独自性、特色ある活動がなくなるのは惜しまれます。 (事務局：これも前ページと同様に、この活動がなくなるということではなく、各学校において自主的に取り組むということです。) |
| ○ 教員全体を対象にした、「若年研修」「ミドル研修」「ベテラン研修」はたいへん良いと思います。 |
| ○ 清掃時の児童生徒の様子をみていないので、その状況等は分かりませんが、校内の清掃後の様子から見て、かなりゆき届いているように思います。保護者等にも、学校清掃デーに働きかけているのは、たいへん効果的です。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (5) 挨拶運動並びに積極的なボランティア活動の推進 |
| 事業内容 | ④ ボランティア活動（児童生徒） |

| 平成28年度実施内容 | |
|---|-------------------------------|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| ソリューションシステム「なかま部会」（こころ磨きプロジェクト）報告より。 | |
| 1. 育てたい子ども像及び2. 本年度の目標は、前ページに同じ。 | |
| 3. 具体的実践内容 | |
| (1) 宇多津幼稚園 各クラス単位での活動や、クラス内の当番活動などを行っている。 | |
| 【内訳】 ・町内クリーン作戦、 ・は一との日（毎月8日） | |
| (2) 宇多津小学校 全校生が力を合わせてボランティア活動に取り組んでいる。 | |
| ・朝のあいさつ運動、 ・朝の清掃活動、 ・あいさつの花運動、 | |
| ・大東川ごみ拾い、 ・熊本募金、プルタブ貯金、 ・ボランティア強化月間 | |
| (3) 宇多津北小学校 毎月11日を「いいことの日」とし、意欲付けを高める日としている。 | |
| ・朝のあいさつ運動、 ・朝や業間の清掃、美化活動 ・熊本、ユニセフ、赤い羽根募金、 ・ペア学年による学校周辺のボランティア清掃 | |
| (4) 宇多津中学校 生徒主体の集会を毎月位置付けて、委員長から表彰者の発表をしている | |
| ・エコキャップ回収（毎月1回）、 ・町内一斉清掃（年2回） | |
| ・駅前清掃（第1・3日曜日）、 ・日曜サロンと日曜日（第3日曜日）、 | |
| ・花の植え替え（春・秋）、 ・赤い羽根共同募金、 ・夏休みボランティア | |
| 4. ボランティア銀行に贈呈されたハート数と各団体への贈呈品 | |
| (1) 宇多津小学校 | 447,052ハート 社協に介護型ロボット桃色はなこ他 |
| (2) 宇多津北小学校 | 467,055ハート 社協にパン発酵器、日用品コンサート他 |
| (3) 宇多津中学校 | 251,370ハート みんなで咲かそう花の会に活動資金他 |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|--|
| 1. ボランティアの意味を理解し、進んでボランティアをしよう、人のために役に立つことをしたいという気持ちが高まっている。 |
| 2. 今後の課題 |
| 今年度から、ボランティア通帳が一新し、個人持ちになったことから、ボランティア活動への意欲を高める効果があった。また、朝のあいさつ運動や清掃活動は、5・6年の上級生がリーダーとなることで、学校のよい伝統にもなっている。 |

【学識経験者の意見】

| |
|--|
| ○ 各校で推進しているボランティア活動は、豊かな心を育てるうえで、きわめて大切な活動です。 |
| ○ 学校の状態に見合ったもので、やりがい、達成感のある内容になっています。 |
| ○ 息の長い活動、実践です。子どもが大人になり、自分の子どもに引きつぐということが、そろそろ始まります。 |
| ○ 地域のことを考えながらボランティア活動を行うことが、前より増えてきたのは何よりです。地域の人たちに喜んでもらえることにより、地域における学校の存在感が増してきますし、地域の人たちも学校を応援する意識が高まってくると思います。 |
| ○ クリーン作戦で、中学生が自治会単位で参加する方式でしたが、あれは非常に良いと思います。学校と地域との取り組みで、触れ合いもできることになります。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|----------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (5) 挨拶運動並びに積極的なボランティア活動の推進 |
| 事業内容 | ⑤ 学校支援ボランティア促進事業 |

| 平成28年度実施内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|--|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|-----|----|----|----|----|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>1. 事業のねらい</p> <p>学校支援活動に参加する意欲のある地域住民が、学校と調整・連携を図りながら、学習支援、環境整備等のボランティアに積極的に参加してもらう。</p> <p>2. 経過と事業の趣旨</p> <p>本事業は、教育活動支援や環境整備支援など学校が必要とする支援活動を行い、教員の子どもに向き合う時間の拡充や地域の教育力の活性化を図ろうとするものである。</p> <p>3. 具体的な取組み</p> <p>宇多津小学校・・・授業支援（総合学習、生活科、家庭科）、放課後学習支援、読み聞かせ 宇多津北小学校・・・読み聞かせ、ふれあいタイム支援、授業支援（家庭科）、校区内パトロール 宇多津中学校・・・あいさつ運動 他</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標値</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボランティア保険加入人数</td> <td>100</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>54</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table> <p>*平成27年度より、地域コーディネーターが不在のため、活動状況（活動内容、参加人数等）が明確に把握できない。</p> | | | | | | | 目標値 | H25 | H26 | H27 | H28 | ボランティア保険加入人数 | 100 | 50 | 50 | 54 | 81 |
| | 目標値 | H25 | H26 | H27 | H28 | | | | | | | | | | | | |
| ボランティア保険加入人数 | 100 | 50 | 50 | 54 | 81 | | | | | | | | | | | | |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校、社会福祉協議会、町内各種団体等と連携し、地域ネットワーク及び町内各種ボランティア人材バンクの設立。 ・中学校における支援活動が少ないため、中学校にふさわしい支援内容を検討する。 ・学校支援活動に積極的に協力いただけるコーディネーターを探す。 |

| 【学識経験者の意見】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校と地域との連携、地域の人材の活用など、児童・生徒の安全と教育力の向上に大きな役割を果たしています。 ○ 支援ボランティアの確保は、どの市町も大きな課題です。核となるコーディネーターを探すことが先決です。 ○ ボランティア保険加入人数が毎年増加していることは、いい状態であることを示しています。 ○ 地域の人たちとの触れ合い活動として、宇多津小学校の昔の遊び、昔のくらし、宇多津北小学校のうどん作り交流会、老人会との触れ合いのことが、何も記載されていないのは残念です。他の評価委員の方々は、こういう活動が毎年行われていることも知らないのではないかと思います。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (6) その他 |
| 事業内容 | ①少年育成センター業務 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1 巡回指導活動

| 育成指導員数 | 補導回数 (年間) | 延べ人数 (年間) | 補導状況 | | | | | | |
|--------|--------------|--------------|-------|-----|---|-----|---|-----|---|
| | | | 道交法違反 | 小学生 | 男 | 2 | 女 | 3 | |
| 60名 | 151回 | 473回 | 帰宅促し | 就学前 | | | | 女 | 3 |
| | | | | 小学生 | 男 | 113 | 女 | 113 | |
| | | | | 中学生 | 男 | 59 | 女 | 5 | |
| | | | | 高校生 | 男 | 10 | 女 | 3 | |
| | | | | 一般 | 男 | 3 | | | |
| | | | 危険行為 | 中学生 | 男 | 2 | | | |
| | | | | 高校生 | 男 | 9 | | | |
| | | | | 合計 | 男 | 198 | 女 | 127 | |

2 相談活動 (年間4件)

| 時期 | 対象者 | 相談者 | 内容 |
|-----|---------|------|-------------|
| 4月 | 中学2年・男子 | 母親 | 行き渋り・学習面の不安 |
| 11月 | 小・中学生 | 地域住民 | 迷惑行為(たむろ) |
| 2月 | 小学3年・男子 | 学校職員 | 不登校 |
| 2月 | 小学6年・男子 | 学校職員 | 不登校 |

| 3 環境浄化活動 | 白ポスト回収数 (年間) | 本 | ビデオ | DVD | 合計 |
|----------|--------------|-----|-----|-----|------|
| | | 532 | 250 | 582 | 1364 |

4 広報・啓発活動 リーフレットの作成・配付

5 教育支援センター活動 学校復帰を目指す通級生徒の支援

目標達成に向けた今後の課題

- 巡回指導活動 ・地域の方々のたくさんの声・目による声かけ・見守りの継続維持のため、事務局と地域との交流を今後も大切にしていく。
- 相談活動 ・支援センター通級に繋がる相談に対応するため学校・関係機関との連携強化。
- 環境浄化活動 ・白ポストの設置数を維持し、老朽化に伴う修繕の必要性を確認する。
- 広報・啓発活動 ・育成センターの活動として、放課後児童健全育成事業の窓口となり、小学生児童の健全育成に深く携わっている事を学校・保護者だけでなく地域にも周知できるよう努める。
- 教育支援センター活動 ・通級生及び家庭との信頼関係を築く事。
・学校・関係機関との連携強化を図る。

【学識経験者の意見】

- 夜型社会化している現在、小中学生への「帰宅促し」は、初期の非行防止の上でも重要です。
- 「危険行為」は成果が見られますが、現実ではもっと多いと思われます。補導の基準を確認する必要があります。
- 町内を、車で放送しながら走っているのは、たいへんご苦労ですが、町内の方々に関心を持っていただくうえで、とても有効だと思います。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (6) その他 |
| 事業内容 | ②サポートチーム連携協議会 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 宇多津町サポートチーム連絡協議会について | 宇多津町立学校に通学する児童又は生徒の問題行動が発生した場合、学校、教育委員会及びその他関係機関が協力し、解決に向けた具体的な支援策の検討及び実施の適切な対応を図るためにネットワークシステム(連携協議会)を構成する。 |
| 2. 平成28年度「宇多津町サポートチーム連携協議会」の開催 | <p>(1)日時:平成28年6月8日(水) 16:00～</p> <p>(2)場所:宇多津中学校体育館ミーティングルーム</p> <p>(3)参加構成機関:坂出警察署生活安全課、宇多津交番、町少年育成センター、主任児童委員 町保健福祉課相談支援センター、各小・中学校、スクールカウンセラー 町サポート指導員、町教育委員会事務局 参加人数 21人</p> <p>(4)内容(情報交換及び成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校……中学校生徒指導現状報告、小学校生徒指導現状報告 ・坂出警察署…坂出署館内の少年非行 ・少年育成センター…宇多津町少年育成センター活動年間集計 ・主任児童委員…かかわっている町内の子どもについて |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|--|
| <p>○大きな事件はないが、各学校において子ども間のトラブルは何件か発生している。</p> <p>○サポートチームで情報を共有し、各専門的立場の人(団体)が動いたほうが、早く解決する場合がおおいにある。</p> <p>○早急な情報の伝達体制の見直し、確認。</p> |

【学識経験者の意見】

| |
|--|
| <p>○ 関係機関間の情報の共有が適切になされています。ただ、問題点・課題の解決に向けての具体的な話し合い、または行動計画の策定が必要です。</p> <p>○ 「各専門的立場の人(団体)が動いたほうが、早く解決する場合がおおいにある」とあるが、具体的にどうするかについては、ケースにより人選して当たることが重要です。</p> <p>○ サポートチームの結成は、有意義です。しかし、その後がどのように運用されて、その結果どのように事件等が解決や対応できたのか、その具体的な事例が記載されていないので、評価のしようがありません。協議会の結成だけで終わっている感があります。</p> <p>○ このような組織の場合は、人材の確保が大切で、中心になって動いている方々は、どのような方なのかが気になります。</p> |
|--|

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|---------------------------|
| 施策目標 | 2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の促進 |
| 施策項目 | (6) その他 |
| 事業内容 | ③宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

- 平成29年度宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会 平成29年5月11日
 (1) 平成28年度活動報告
 (2) 講演会「子どもの貧困対策」(岡山県立大学保健福祉学部 近藤 理恵 教授)
- 実務者会 月1回定例開催し、要保護児童、特定妊婦、DVなどの個別事例について、関係機関・多職種の参加で、支援状況などについて情報交換し、課題の共有、役割分担等を行う。

【主たる相談種別】

| 養護 | | 障害 | 非行 | 育成 | | その他 | | 計 |
|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|------|
| 児童虐待 | その他 | 発達障害 | ぐ犯触法 | 性格行動 | 不登校 | 特定妊婦 | その他 | 136件 |

- 進行管理会 年2回、上期と下期に分けて、実務者会で検討している事例について、主担当機関で、援助方針の確認や見直しを行う。
- 個別ケース検討会 児童虐待など要保護児童及び家庭への支援過程において、情報の共有、課題の整理、支援の方向性の確認や変更など、協議が必要と判断された場合、支援している関係機関が集まり、個別ケース検討会を開催する。

【主たる相談種別】

| | | | | | |
|-------|-------|-------|----------|-----|-----|
| 身体的虐待 | 心理的虐待 | ネグレクト | その他の養護相談 | 不登校 | 22回 |
|-------|-------|-------|----------|-----|-----|

【関係機関】西部子ども相談センター、中讃保健福祉事務所、教育委員会(学校・幼稚園・保育所)、医療機関、障害者、談支援事務所、民生委員、町健康増進課、町保健福祉課。

目標達成に向けた今後の課題

- 本業務について
保健福祉課の相談支援センターが中心となって、各機関・団体の連携によって、各家庭への支援の仕方やその子どもへの対応について検討するもので、教育委員会独自の事業ではない。
- 今後の課題
どのケースも簡単に解決できるようなものはなく、継続的にそれも長期に渡り支援が必要で、多数の組織が連携して当たっているが、それぞれの個人や家庭が自立あるいは正常化するまでには至らないのが現状である。

【学識経験者の意見】

- 支援を必要とする対象者の把握と、具体的な支援が適切になされています。
- この事業については、宇多津町の活動は他の市町のモデルになっています。
- 包括支援センター等の他の機関との連携をどう図るかが問題です。教育格差との関連も、今後は重要になってくると思われます。
- 宇多津町のやり方というのは、他市町の大事なモデルになっているので、自分たちの市から見て助かっています。児童相談所とどう関連付けて取り組んでいくかということが大事だと思います。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (1)文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の支援と推進 |
| 事業内容 | ①宇多津検定 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 日時 | 平成28年12月21日(水) |
| 2. 場所 | 宇多津中学校各教室 |
| 3. 対象者 | 宇多津中学校1, 2年生 341名(1年生161名、2年生180名 前年対比5名減) |
| 4. 合格者 | 84名(1級:4名、2級:27名、3級:53名) 合格率24.6% 前回合格者32名 平均点57.39点(1年生:55.37点、2年生:59.17点) 前回47.54点 |
| 5. 出題範囲 | 古街 電車道、旧宇多津駅 農業、漁業、塩業 町家とおひなさん 町の歴史、祭り関連 各神社、お寺 |
| 6. 結果 | 試験範囲: ちょうどよい56%、もっと狭くするべき37% 問題数: ちょうどよい67%、多い23% 難易度: 難しい47%(前回は56%)、普通49% |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|-----------------|--|
| 1. 実施の時期 | 高校受験の取り掛かり時期と重なるため、3年生を受験対象外としている。 本来の目的においては全生徒の受験が望ましいので、3年生を含めた実施を検討する。 |
| 2. 出題範囲について | 予習帖を活用することで、特定の分野において知識を得ることができ、合格者の増加に繋がっている。 本を持って帰ることが出来ないため、予習帖が役に立っているとのこと。 先生を通して出題範囲を生徒に周知させ、合格者の増加に繋げる。 |
| 3. 目的の再確認と情報の更新 | 地域の歴史・文化を知ることは、郷土を愛するために必要である。 しかし、他市町がご当地検定をやめていく中、当町においても今後試験範囲や対象者、アンケートの結果など、総合的な面で検討していく必要がある。 検定本の内容を適宜追加し、新しい情報も追加する必要がある。 小学生用の検定本を作成することも検討する。 |

【学識経験者の意見】

| |
|--|
| ○ だんだん慣れも出てくるとは思うが、ぜひやり方等に工夫をしながら、継続していただきたいと思えます。 |
| ○ 地域に関心を持たせるうえで、非常に効果的です。ぜひ、今後も続けてほしいものです。 |
| ○ これはすばらしい教育だと思います。故郷に対して思いを書ける子どもが少なくなっています。特に、県外に出ると、もう故郷に帰らないとか、いろいろあります。郷土の歴史や文化の学習を通して、郷土を知るなど、愛郷心を育てる教育をなさっていることと、もう一つは郷土のために役立ちたいというような郷土のために奉仕する人間、いわゆる「人間育成の目的」もあると思われれます。さらに、宇多津に誇りを持てる子どもたちを育てることにつながっています。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (1)文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の支援と推進 |
| 事業内容 | ②平成相聞歌 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 事業内容 | <p>○香川短期大学との連携事業「若者が集う文化のまち宇多津実行委員会」を立ち上げ事業を実施。</p> <p>○携帯電話やパソコンのメールで「平成相聞歌」を募集。募集期間は9/1～11/11</p> <p>○募集チラシは、町内公共施設、学校、県内報道機関、県内市町教育委員会、県関連機関 県外高校文芸部等に配布。</p> <p>○選考：（1次選考）期間内の応募作品の中から選考委員により50作品程度が選ばれる。 （2次選考）一般の方のインターネットによる人気投票の結果を考慮し、選考委員により、最終選考を行う。</p> <p style="padding-left: 40px;">最優秀作品1点、優秀作品3点、特別賞10点、四国新聞社賞・香川短期大学賞各5点</p> <p>○授賞式（2/11 ユープラザうたづ）</p> <p>受賞者のうち出演可能な人は、携帯電話（第8回からスマートフォンを使用）のテレビ電話送受信による賞状の授与を行う。</p> <p>○交流会 授賞式後開催</p> <p>○除幕式 交流会後受賞作品を刻んだ石碑の除幕（第10回最優秀賞1基、第9回優秀賞3基）</p> <p>○第10回記念イベントの実施（うたパス“スタンプラリー”・うたづっ子俳句コンクール）</p> |
| 2. 事業実績 | <p>応募数： 平成28年度（第10回）6531 平成26年度（第8回）5637 平成27年度（第9回）4811</p> |
| 3. 補助金 | 190万円/年 |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会を通常よりは早く開催し、イベント内容等を検討する。 ・記念イベントの一つとして、実施した子ども俳句大会の継続。 ・宇多津町民にもっと事業内容をしてもらい、同時に、町民からの応募を増やすための工夫。 <p>○歌碑の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第11回からは最優秀賞（1基）のみ設置する。 | |

| 【学識経験者の意見】 | |
|---|--|
| <p>○ 応募数が過去最大となり、また10年間の総計が3万7000件に及ぶなど、宇多津町が全国的な文化の発信地として定着した感があります。</p> <p>○ 「熟年夫婦」相聞歌部門なども入れ、世代間の関係性を深化するなど、まだまだ企画上はいいものが出てきそうです。</p> <p>○ 宇多津町の特色を出す数少ない文化的行事の1つですが、PR不足のためでしょうか、町民の関心が薄いことが気がかりです。新聞やマスコミに、もっと積極的に働きかけてはどうでしょうか。</p> <p>○ 運営委員会があると思いますが、そこでの検討課題の1つとして、もっと検討すべきだと思います。成人式等にも、これまでの優秀作品を掲示するなど、若者へもアピールするとよいのでは。</p> | |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (1)文化・芸術活動並びに伝統文化伝承活動の支援と推進 |
| 事業内容 | ③文化財 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 文化財保護委員会事業 | |
| (1) 保護委員会の開催について | 平成28年6月27日、平成28年11月4日、平成29年3月23日の計3回 |
| (2) 報告事項・委員研修など | <ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財「木造千手観音立像」の展示について ・登録有形文化財「こめっせ宇多津」の改修工事完了について報告 ・町指定天然記念物「榎柏の木」の現状変更について報告 ・町指定文化財「聖通寺本堂」の耐震改修及び調査について ・町指定文化財にするものについて、現地を研修する。 |
| 2. 文化財保護協会事業 | |
| (1) 会員数について | 県・町会員 39名 町会員 7名 計46名 |
| (2) 補助金について | 年間135,000円 細川頼之研究事業補助金 270,000円 |
| (3) 実施事業について | 総会研修会として、天理大学文学部 天野忠幸准教授を招き、「室町時代の細川氏と三好氏との関係」と題して講演をいただく。 |

| 目標達成に向けた今後の課題 | |
|-------------------|---|
| 1. 文化財保護委員会事業について | 新規に申請がなかったため、指定文化財の審議には至らなかったものの、指定にて保護すべき場所に研修を行うことで、委員の理解を深めることが出来た。 |
| 2. 文化財保護協会事業について | 細川頼之研究会発足時より検討されていた、研究者による講演をいただくことができ、会員のみならず、一般の聴講者も多く見られた。自らが研究し、関係のある土地に研修を行うなど積極的な活動が見られるものの、会員数は減少傾向にあるため、役員・会員からの声掛けが必要。 |

【学識経験者の意見】

| |
|--|
| ○ 文化財関連行事の設定により、文化財への関心と理解を高め、地域の文化財を愛する心を育てています。 |
| ○ 町を代表する歴史的人物について、講演会開催により歴史意識と誇りを高めています。 |
| ○ せっかくの文化財を、一部の人たちだけでなく、広報等で広く町民の人たちにも知ってもらう必要があります。「文化の日」を中心にした前後に、「町の文化財週間」などを設けて、保護についてのPRや、可能な限りで展示することも考えてみるとどうでしょうか。 |
| ○ 伝統ある文化財をどのように保管しているか、町が保有している文化財の保管場所を検討していただきたい。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|------------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実と推進 |
| 事業内容 | ① 女性セミナー |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

男女共同参画社会に対応した社会作りを目指し、女性の視点から講座を開設・実施する。

1. 年間活動及び参加者数

- | | |
|-------------------------------|---------|
| (1) 郷土料理教室（鱈の押し寿司） | 参加者 29名 |
| (2) スロートレーニング | 参加者 22名 |
| (3) 男木島研修（瀬戸内国際芸術祭見学） | 参加者 29名 |
| (4) 和服講座・小物作り | 中止 |
| (5) もみじ茶会（倉の館三角邸にて実施） | 参加者 67名 |
| (6) 古い着物の片付け方・活かし方①（講師 西川満佳氏） | 参加者 17名 |
| (7) 古い着物の片付け方・活かし方②（講師 西川満佳氏） | 参加者 20名 |
| (8) 県外研修（奈良県 飛鳥方面） | 参加者 33名 |
| (9) うどん作り教室 | 参加者 23名 |
| (10) 工場見学・和食マナー教室 | 参加者 24名 |
| (11) 香川人権研究所訪問研修 | 参加者 19名 |
| (12) 公園施設清掃 | 参加者 20名 |

2. 会員人数

71名 （H27 88名）

3. 延べ参加人数

303名 （H27 319名）

目標達成に向けた今後の課題

- ・ 座学・現地研修などの活動を行うが、座学の参加人数が少ない傾向にある。
- ・ 講座の企画については、現年度会員の声を元に次年度の計画を立てるため、参加者のニーズを捕らえたものが実施できていると考えられる。
- ・ 引き続き参加者の声を反映しながら講座を計画し、様々な体験活動・学習の機会を提供することで会員数及び延べ参加人数の増加を図る。

【学識経験者の意見】

- 多彩な行事を設定し、希望に応じて参加し活動しやすく配慮されています。
- 行事の内容に相当する参加数が確保されていて、充実しています。
- 20代～40代の参加もあるような企画がほしいものです。
- 婦人会に参加する人数が、老人会と同じように、毎年減少傾向にあると聞いています。老人会同様、これらに向けての活動を、時代の流れを考えながら配慮すべきだと考えます。この頃は働いている婦人も増えてきているので、勤労婦人を対象にした活動も工夫するとよいのではないのでしょうか。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|------------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実と推進 |
| 事業内容 | ②生涯学習講座 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

1. 事業内容・実績

- (1) 講座内容・回数(日/時間)・受講者数 合計7講座 参加延人数:573名
- 笑いヨガで心も体もスッキリ 8日(1.5h)9名
 - 短歌を詠もう(初心者用) 8日(1.5h)10名
 - 映画で見る日本歴史 7日(2.0h)21名
 - 宇多津の歴史・民族の文化を学ぼう 5日(1.5h)12名
 - 小粋でおしゃれによさこい鳴子おどり 10日(1.5h)15名
 - 讃岐の郷土料理を作ろう 10日(2.5h)25名
 - ニューススポーツを体験しよう 4日(2.0h)
 - ・ カローリング 27名
 - ・ スポーツチャンバラ 19名
 - ・ キンボール 7名
 - ・ スポーツ玉入れ 2名

(2) 募集方法・期間

4月広報に講座要項・応募用紙を挟みこみ。事務局窓口へ申込用紙と受講料(1,000円)を持参。
募集期間:4月6日～4月24日 3週間

2. 香川短期大学との連携事業

カルチャー講座を開催 カルチャー講座委託料 40万円/年

(1) 講座内容・回数(時間/会)・受講者数 合計21講座 参加延人数:598名

- 楽しくイタリアン!! 1日(2h)20名
- 親子講座 読み聞かせと手作り絵本 2日(2h)35名
- 日本の文化に親しもう 3日(2.0h)32名
- ～人生に光を～自分史を書こう 2日(2h)6名
- 初心者・シニアのための ワードで簡単な案内文を作ってみよう!! 3日(1.5h)10名
- ゆかた着付け教室 2日(1.5h)26名
- 小学生夏休み 親子クラフト教室 1日(3.0h)22名
- 小学生夏休みの宿題 読書感想文講座 2日(1.5h)42名
- 小学生夏休み 親子クラフト教室「グレーガン」1日(2h)26名
- 夏休み親子料理教室 1日(2h)47名 など

(2) 募集方法・期間

5月から香川短期大学HPに掲載、ユープラザ・町教育委員会にて募集チラシを随時設置し募集。

目標達成に向けた今後の課題

○ 講座数・講座内容・講座回数の検討

講座内容により受講者数にばらつきがある。受講生を対象としたアンケート調査等を参考に公民館運営審議会において、ニーズに合った講座内容の検討を十分に行う。

○ 出席率を高める工夫

欠席が続いている受講生には講師と相談しながら欠席を減らす手立てを講じる。

○ 受講後の受講生への支援

講座終了後は受講生が学んだことを活用できる自発的なサークル活動の結成支援を行う。

【学識経験者の意見】

- 教養・娯楽・心身の鍛錬など多様な内容が設定され、中高年の参加と活動の場を設定していることに意義があります。
- 参加数を増やす工夫が必要です。
- 「自発的なサークル活動の結成支援」とはいえ、多少なりとも指導者が必要です。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|------------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (2) 地域住民ニーズに対応した生涯学習講座の充実と推進 |
| 事業内容 | ③ 宇多津大学（老人会） |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|------------|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 高齢者が健康で明るく生きがいのある生活が送れるよう、社会参加及び学習の機会を提供する。 | |
| 1. 年間活動及び参加者数 | |
| ・ バランスの良い食事のススメ～栄養素・エネルギーのバランス～ | 参加者75名 |
| ・ 暮らしの中の食品衛生～家庭での食中毒予防～ (香川県生活衛生課 主任 吉田明美 氏) | 参加者62名 |
| ・ 悪質商法～高齢者に多い消費者被害～ (香川県消費生活センター主任 大西 剛 氏) | 参加者66名 |
| ・ 運動教室～心と体がよるこぶ運動～ (健康運動指導士森 明美 氏) | 参加者68名 |
| ・ 町外研修（愛媛方面） | 参加者73名 |
| ・ コーラス 「なつかしい歌をうたって、元気に」 (香川短期大学 教授 渡邊理香氏 藪内利江子氏) | 参加者67名 |
| 2. 会員数 | |
| 141名（前年136名） | |
| 3. 行事参加者数 | |
| 延べ404名 | H26年度 392名 |
| | H27年度 462名 |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|--|
| <講座の企画について> |
| ・ 事業の企画については、香川県消費生活センターが主催する出前講座を中心に計画する。 |
| ・ 参加者の興味・関心の高い事業を実施し、また幅広い活動を実施するため、町社会福祉協議会と連絡を密に行い事業を行う。 |
| <参加人数について> |
| ・ 会員数は若干増加したものの、各回の参加人数が減少したことで延べ参加人数が減少した。 |

| 【学識経験者の意見】 |
|--|
| ○ 高齢者が学ぶ活動の機会の設定は、時代の要請です。 |
| ○ 有意義な行事が組まれていて、盛況です。 |
| ○ 参加人数の減少対策としては、アンケート等を実施し、内容・日程・会場について、データ化しても良いと思います。 |
| ○ 他の行事と重なる時があり、町行事や他のグループとの連携を取ることが、参加人数の増減に影響します。参加している会員は、毎回熱心に聞いて、集まることを楽しんでいるように思います。文化的なものも、入れて多角的な取り組みができたと思います。 |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (3) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進 |
| 事業内容 | ① スポーツの推進 |

平成28年度実施内容

目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。

町民の健康増進、体力の向上を目的に、スポーツ・レクリエーション事業を企画し開催する。開催後も、教室等で学んだ運動を自主的に継続して行うことができるようになることが目標。事業については、町スポーツ推進委員（15名 男10名、女5名）が中心となって指導をする。

○指導・協力事業について

(町)

●健康ウォーク 5/15開催 南あわじ市沼島 参加者数41名

●「ニュースポーツを体験しよう」&町民体カテスト 9/10, 11 北小体育館

・9/10 カローリング 参加者27名 講師によるルール説明・実技指導・試合

・9/11 スポーツチャンバラ 参加者19名 講師によるルール説明・実技指導・試合

町民体カテスト 参加者 16名 スポーツ推進委員が指導

●「ニュースポーツを体験しよう」11/12, 13 北小体育館

・11/12 キンボール 参加者7名 ルール説明・実技指導・試合

・11/13 スポーツ玉入れ(アジャタ) 参加者2名 綾川町スポーツ推進委員が協力

○研修

県 ●県(5/14) スポーツ推進委員研修会に参加し、ニュースポーツ等の実技指導を受ける

四国・全国

●四国(1/21.22)・全国(11/17.18) スポーツ推進委員研修会に参加し、情報交換、実技指導を受ける

目標達成に向けた今後の課題

○事業内容の検討

・「ニュースポーツを体験しよう」の講座を9月と11月に開催したが、11月講座の参加者が非常に少なかった。開催時期の見直し、募集方法など検討しなければならない。

・種目については、親子参加型や家族参加型などを定例会で協議する。

【学識経験者の意見】

○ スポーツを通しての町民の触れ合いと、心身の鍛錬に貢献しています。

○ 社会人スポーツの参加者を増やす工夫が必要です。

○ 健康増進のために、親しみやすいスポーツを学ぶ場を提供しようとしていることは、今後も進めていただきたいものです。

○ 年度当初に、おおよその計画を立て、もっとPRすべきではないでしょうか。ボランティア連絡協議会が、月に1回開催されているので、そういう場に参加したり、老人会の理事会、婦人会にも当事者が事前に参加して、説明などをしていただくと、もう少し参加人数を増やすことが期待できると思われます。

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (3) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進 |
| 事業内容 | ②大松杯バレーボール大会 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 開催目的 | 第48回国民体育大会を機に、宇多津町名誉町民である、故大松博文氏のバレーボール競技における偉業を称えとともに、バレーボール競技の振興・発展、また、町民と他県の方々とのふれあいを図るために開催。 |
| 2. 開催日時 会場 | <p>歓迎セレモニー・開会式 平成28年10月8日(土) 16:00～ 宇多津中学校体育館</p> <p>試合 10月9日(日) 8:30～ 宇多津中学校体育館</p> |
| 3. 参加チーム | 10チーム(中国・四国各県のママさんバレーボール連盟から推薦されたチーム。全国ママさんバレーボール大会各県予選第1位チーム及び宇多津チーム) |
| 4. 大会運営協力者 | <p>県ママさんバレーボール連盟審判委員10人、 312人 体協・スポーツ団体部員85人、役場職員23人、婦人会8人、 商工会女性部16人、 宇多津中学校教諭7人・生徒98人(開会式・閉会式のプラカード係、 開会式演奏、放送係、飲み物の販売、試合の点示係) 宇多津小学校教諭6人・生徒67人(歓迎セレモニーにおける演奏・演技) 坂出商業高等学校女子バレーボール部顧問教諭1人、部員15人(線審)</p> |
| 5. 大会運営費 | <p>町補助金 1,700,000円 (公財)OHKスポーツ振興財団香川 180,000円</p> |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|---|
| <p>○運営内容の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流会の開催の有無 ・協力員の負担を軽減 相互審判、坂出商業高校・宇多津中学校バレー部の協力 ・多くの住民に観戦してもらうための工夫 |

【学識経験者の意見】

| |
|---|
| <p>○ 大松氏の偉業を永く後世に伝えようとする熱意と努力が感じられます。4分の1世紀にも及ぶ継承で、宇多津町の伝統の行事となりました。</p> <p>○ 全国に発信したいものです。</p> <p>○ せっかくの熱戦が展開されるのに、応援する人たちの数がそう多くないのは、たいへん残念です。</p> <p>○ 30年度は、記念すべき大会なので、町民の人たちにも、大松さんのことをもっとPRすべきではないでしょうか。</p> <p>○ 東宝映画で『おれについて来い』があります。そのフィルムを借りて、ユープラザで上映をするも良いと思います。</p> |
|---|

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (3) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進 |
| 事業内容 | ③宇多津子どもロードレース大会 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|--|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| <p>毎年1月2日県下ロードレース大会として開催していたが、宇多津町の児童の参加率が4割程度の為、今回から実施日を第二土曜日とし申込方法も事前申込みのみとした。 参加申込みは過去最高（203人）で、宇多津の児童も96人の申込みがあり5割近くの割合となり変更の成果はあった。</p> <p style="text-align: center;">第65回宇多津子どもロードレース大会</p> <p>日 時 平成29年1月14日（土）午前8時30分～</p> <p>会 場 宇多津小学校グラウンド</p> <p>参加人数 男 110人 女 78人 合計 188人</p> <p>運営協力者 体協スポーツ団体部員30人、役場職員7人、青年会2人</p> <p>運 営 費 町補助金 299,500円</p> | |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|---|
| <p>○運営内容の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体協陸上部への協力 ・多くの児童に参加してもらうための工夫 |

| 【学識経験者の意見】 |
|---|
| <p>○ 宇多津町の伝統の行事が創意によって大成功となりました。</p> <p>○ こうした積み上げは、目立ちませんが、宇多津の宝となる、とてもいいものです。</p> <p>○ 県下のロードレースの中でも、終戦後いち早く取り組んだ町の伝統から考えても、今後も続けてほしいものです。しかし、時代の流れの中で、実施の方法等について、見直さなければならぬこともあると思われます。</p> <p>○ 宇多津小学校の児童数が増えたことは何よりです。</p> <p>○ これも65回です。完全に伝統行事です。特に、日にちの設定を工夫したところ、宇多津町の子どもが約100人近く、約5割近くが参加しています。これは大成功と言えます。</p> |

平成28年度宇多津町教育方針の施策目標の点検・評価調査表

| | |
|------|-----------------------------|
| 施策目標 | 3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進 |
| 施策項目 | (3) スポーツ・レクリエーション活動の充実と推進 |
| 事業内容 | ④ スポーツ及び文化芸術激励金等交付事務 |

| 平成28年度実施内容 | |
|--|---|
| 目標値から見た実績値や進捗度が分かるものがあれば、それも記述・図示してください。 | |
| 1. 趣旨 | 町におけるスポーツ及び文化芸能の振興を図るため、大会に参加する個人または、団体に激励金を交付する。 |
| 2. 要綱の改正 | スポーツ部門のみ奨励金として交付していたが、生涯学習課においては、スポーツ部門、文化・芸能部門においても、生涯学習や社会教育として住民に対し奨励しているところもあり、文化・芸能部門の該当者にも同様な支援をするようにした。 奨励金を激励金に改めた。また、個人及び団体への激励金年間限度額を明確にした。平成24年度4月より実施。 平成27年度に、旅費の代わりとして交付しているという考え方により、義務教育課程への加算金は取り消した。 |
| 3. 交付人数 | 平成23年度実績:スポーツ部門 205人 総額 1,333,000円 平成24年度実績:スポーツ部門 95人 文化芸術部門 0人 総額 634,000円 平成25年度実績:スポーツ部門 165人 文化芸術部門 4人 総額 1,007,000円 平成26年度実績:スポーツ部門 218人 文化芸術部門 0人 総額 1,278,000円 平成27年度実績:スポーツ部門 142人 文化芸術部門 0人 総額 550,000円 平成28年度実績:スポーツ部門 201人 文化芸術部門 0人 総額 769,000円 |
| 4. 交付件数 | 平成23年度実績:36件 平成24年度実績:33件 平成25年度実績:42件 平成26年度実績:43件 平成27年度実績:37件 平成28年度実績:50件 |

| 目標達成に向けた今後の課題 |
|---|
| <p>周知方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌や町ホームページにて制度を周知。学校より該当する保護者に制度を周知。その他、学校(学校教育課)や文化協会からの情報の獲得。 <p>交付について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支出金額が増加したことに伴って、すべての大会に交付するのではなく、申請時に交付対象者かどうか要綱及び申合せを基準に、主催や規模、予選大会の有無など、交付をするに値するものか検討する必要がある。 ・大会や種目によって上位大会への出場資格にさまざまな特徴があるため、課内協議による可否決定となっている現状である。今後は交付決定の基準を決めるため、本要綱を改正する必要がある。 |

【学識経験者の意見】

- 激励金の交付が宇多津町のスポーツと芸術の振興に大きく寄与しています。努力と成果が、誰しものが認める価値あるものに交付されるよう希望します。
- ぜひ選手のフェアネスや倫理性を盛り込んでください。

定例教育委員会における議論から

教育委員さんからの意見として、「目標に向けた今後の課題」のところ、今後の課題になっていないものがたくさんあるという指摘を受けました。単に「やったこと」だけが書いてあるものが、いくつもあり、今後の課題になっていないということでした。読み返してみますと、確かに多くの事業で指摘のとおりでした。そこで、これら全てを1からやり直していると、時間的にも間に合わなくなりますから、今回はこのまま承認いただいで次年度の「教育委員会評価」の中で、修正していくということで、承認いただきました。その点は、外部評価委員さんも知っておいていただいたうえで、ご意見をいただきます。

【その他の意見】※ここから後には、各項目ごとの「学識経験者の意見」欄で、入らなかった意見を記入する。

1. 活力ある学校教育の推進

1-(1)-① 宇多津教育ソリューションシステムによる連携・一貫教育の推進

○「対話による主体的で深い学び」は、「アクティブ・ラーニング」の表現を明示をした方が良いと思います。

○ 幼・小・中の教育に、連携した一貫性をもたせようとしている取り組みは、教育効果をあげるうえで、大いに効果的です。ただ、「ソリューションシステム」という名称だけでは、どのようにそれを進めようとしているのかが、具体的に分かりません。交流会の持ち方に、どのような特色を持って進めようとしているのかが知りたいと思います。

○「宇多津教育ソリューションシステム」が、今年度で終わるということですが、私は本当に名残惜しいというように思います。恐らく「なくなる」というのは、発展的な解消ということだと思うのですが、「宇多津町のソリューションシステム」が、保・幼・小・中連携一貫教育に果たした役割は、非常に大きいと思います。その1つが、それぞれの部会で、「課題解決」をしてきたということです。新しく28年度に初めて入ったと思うのですが、「若年教員研修会」というのが入っています。遅かりしとはいえ、入ったことは適切だったと思います。ご存じのとおり、この3月には福井県の池田町で30代前半の方が指導死しました。2人の教員によって執拗に注意を与えたことが原因でした。また5年前には大阪の桜ノ宮高等学校のバスケット部のキャプテンが体罰を受けて死んだなど、そういうこともありまして、だいたい30代というのはまだ未熟だと思います。保護者の批判も多いのが、この20代・30代だと思います。この段階で若手研修を実施したというのは、本当に適切だったと思っています。2つ目は「宇多津教育の平均化」ということで果たした役割は、非常に大きいと思います。各学校で独自色を出そうという意見も出てくるとは思いますが、どうしても同一歩調で事に当たることが必要であるということがあります。その点でこの「ソリューション」が果たした役割は大きいと思います。もう1つは、「教育水準の向上」ということで、保育所・幼稚園から中学校まで一体的な取り組みで、宇多津の教育の水準を上げて来たと思います。そういう全て保育所・幼稚園から宇多津中学校に集約されるという、宇多津町独特の状態がありますから、どうしても同一歩調で進むことが、いちばん良いことだと思っています。その意味で「ソリューションシステム」の終了は残念ですが、果たした役割は大きいと私はそう評価しています。

《事務局より》

「ソリューションシステム」について、評価していただきありがとうございます。先生の評価のとおり、この後の「第三次教育連携5か年計画」というのを、すでに今年から実施しています。ほぼ同様の内容で、保・幼・小・中の連携の活動になっています。その中で、評価していただきました「若年教員研修」につきましても、回数を増やした内容で今年度実施しています。今年は、「若年研修」だけではなくて、教職員全員の研修をテーマにして、「若年研修」「ミドル研修」「ベテラン研修」の3つに分けて、全教職員を対象に実施しています。

1-(1)-② 保・幼・小・中の連携した英語教育・外国語活動の推進

○ 外国語の学習を、発達段階に応じて重点化の視点を押さえているのは良いと思います。ただ、何のために

外国語を学習するのか、それが自己の成長のためにどのように役立つのかの目標を、はっきりと持って学習に取り組むようにしたいものです。

○ 高松市が10日ほど前でしたでしょうか、2年間前倒しをして英語教育を実施するということでしたけれども、とくに宇多津町はそれを実施している訳でして、その意味で英語教育は、宇多津は先進町であると言えますと思います。宇多津の英語教育のすばらしさというのは、保育所から中学校まで連携した英語教育がなされているということです。これは、他の市町ではとても真似できないことがらです。2つ目には、メニューをたくさん組んでいます。私はこれを見た時に、「楽しい、役に立つ、そして多様な学び方をしている」という点で、非常に素晴らしい取り組みだなあと思いました。もう1つは、これはいちばん大事なことです、2つの小学校が、1つの中学校に入るということです。県内で、1つの中学校に入るということは6つあるのです。小豆島町、直島町、三木町、まんのう町、琴平町、多度津町です。中でもいちばんやりにくいのが宇多津町です。確かに新町と旧町の2つの違いがありますが、四国では高知県の田野町に続いて2番目に小さな、わずか80平方キロの小さな町です。その2つの町の小学校が、中学校に入った途端に大きな較差があるのではないかという状態が出てくると、いちばん困るのです。そういう点で、私はこの「小・小交流」、小学校2校の連携と交流は非常に大きな役割を担っていると思います。2つの小学校が歩調を合わせなければ、中学校に入ってすでに習っているはずなのにとか、逆のことも言えますし、そういう点で「小・小交流」「異学年交流」等いろいろな形で、宇多津の英語教育は素晴らしいと思います。もう1つは、中学校のニュージーランド派遣についてです。私は、宇多津中学校の評議員の時に、ベトナムに行く時に助言させていただきましたが、ちょうど香川短期大学の時に、ベトナムからの留学生がいたものですから、その学生の協力も得て、国際理解教育が復活した、確かに少人数ではありますが、グローバル化できる人材を宇多津町から出すということは、大切なことだと思います。そういう英語教育について、高く評価させていただきます。

○ 英語教育については、何のために英語教育をやっているのかということについて、子ども自身がはっきりできるようにすることが大切です。ただことばを知って、話して通じればよいというのではないということです。ことばの学習ということで、国語教育にも影響してくることになります。今の国語教育を見ると、点数に現れる学力だけを重視して、人と人のつながりを大事にしようという意識が、どんどん薄れてきています。平素からことばのしつけというものがようになってきていると思います。心と心の通じ合いという基本が大切にされる教育をめざしていただきたいものです。

1-(1)-③

情報教育の推進

1-(2)-①

実践的な防災教育の実施と防災力の向上

○ ここは「防災教育」という項目なのに、AEDが出てきたり「不審者対策」が出てきたりしています。たぶん小学校の報告の部分が、これというならば「安全・安心の学校作り」の内容で報告されたのではないかなと思うのです。いろいろな内容が入っていて、「自転車の乗り方」から「不審者対策」まで入っています。そういうことでは、少し整理する必要があると思います。もう1つ違和感があるのは、11月4日というのは実際に一斉になさっているのですが、11月5日というのが「世界津波の日」なのです。昭和27年の国連の第70回の総会において、日本の提案によってこの「世界津波の日」というのが設定されました。これは和歌山県の津波が起こった時に、庄屋の濱口梧陵というのが収穫した稲に火をつけて、地域住民を高台の神社に避難をさせたということから来ているのですが、そうするとこの11月4日は、実際上は11月5日が土曜日であったため前倒しで4日にしたのですが、それだったら防災が地震一辺倒ではなくて、津波も想定した避難の仕方というのがあっていいのではないかと思います。地震と津波の避難方法は全く違います。宮城県の石巻市の大川小学校は、84人の児童で74人が亡くなりました。教職員も10人が亡くなりました。何で地震と津波なのに50分も運動場で待機させたのか、しかも待機してようやく動き出したら北上川の堤防方向に400メートル移

動させた、すぐ運動場の横に山があるにも関わらず、それを行ったということで今も裁判になっています。それで敗訴の可能性が強くなっています。地震の場合には「ドロップ・カバー・ホールドオン」、この動かないとか、頭にかぶるとか、体を低くするとかいうのと、津波の場合に「より早く、高いところに逃げる」「遠くに逃げる」ということですが、避難訓練の時に「地震の上に、津波の可能性ががあります」という放送があった場合には、それに基づいて、4階に逃げるのか運動場に逃げるのか、それが違ってくると思います。そういう点で、やってこられた11月4日が地震一辺倒になっていることについては、やや懸念があります。

1-(2)-②

問題行動等の防止

- 「問題行動等の防止」ですが、「対教師暴力」はなくなっていますね、「いじめ」が宇多津小で1、北小で1、中学校で1年生が4名と、3年生が2名ということになっていますが、少し意地悪なことを申しますと、この宇多津中学校の6というのが、どちらの小学校が加害者になっているのか、ここまで考えなくていいのでしょうか、各小学校での「いじめ対策」に差が出てきているということにもなりかねない訳です、いずれにしても、教育委員会の指導としましては、こういう問題行動については、情報を共有する、1人の担任の責任にしない、組織と取り組む、親に必ず連絡する、カウンセリングを実施するということが必要だと思えます。また、発達障害について書いてありますが、これは一人の担任に負担をかけず、学校全体としての取り組みが必要で、す。もう一つは、「不登校」が、中学校で19名に昇っています。確かに潜在的なものを見ると、30日を越えたら19人でしょうが、30日を満たない人たちがその底辺にたくさんいるのではないかと思います。すると、氷山の一角ということにもなるようにも思えます。そう考えると、私が懸念するところでは、19名は多いのではないのでしょうか。私は、不登校になる理由にはいろいろありますから、断定は出来ませんが、1つ言えることは、「社会性の不足」です。社会性を身に付けるためには、宇多津町がせっかくやっている「子ども会」とか、「寺小屋」とか、こういう人間関係を育てる事業をやっていただいているのですから、2つの小学校がもう少し、そういうところに行った方がいいよと、声かけをしていただいた方がいいと思います。
- 成果を数字で表すというのは、良い面もありますが、それに迷わされないということが大事です。学力テストの点などもそうですが、問題の出し方だけで2~3点はすぐ変わる訳ですから、数字だけにこだわらない方が良いと思います。その裏にあるものが出るような姿勢の方が良いと思います。

1-(2)-③

学校情報・地域情報の配信に充実

- 「不審者情報」については、有効に配信されています。また、少年育成センターにも連絡していただいているようです。「安全パトロール」というのは、あるのでしょうか、また、そこには連絡がいつているのでしょうか。(事務局:「はい、できています。」)ああ、そうですか。「情報の配信」だけではなくて、どのようにその情報を生かして対処するかということも、お考えいただけたらと思います。「不審者の情報」が多く流れるというのは、一つは、コミュニティが希薄になっていることと、隣人関係が悪くなっていることにあるのだと思うのですが、もう一つに、視覚にあるのだと思うのですが、「デッドゾーン」というのが多くなってきました。公園とか駐車場とか、もともと生活道であるも関わらず、そこに外部の車が頻繁に通るようになってきて、見分けがつかなくなってきているという状態もあると思います。たぶん、宇多津町の教育委員会ですから、それに対する対策というものを、学校に対して指示していると思いますが、いずれにしても「相手から離れる」「逃げる」「大きな声を出す」「大人に知らせる」、こういうふうな行動をもっと徹底していただければと思います。

1-(3)-①

安全・安心な学校給食の実施

- アナフィラキシーショック症状はだいたい10分~15分ですので、手際よく対処しなければいけないのですが、もう一つは問題が非常に大きいので、たぶん作っていると思うのですが、「対策委員会」というものと、役割分担と手順をしっかりと確認しておいていただくことです。もう一つ、学校によっては、誤食ですね、誤った

配膳を防ぐために、担任がすぐ横でチェックをしているところもございますので、そういう配慮がなされたうえで起こるのであれば、やむを得ませんが、現在、裁判等で問題になっていますのは、学校の責任が問われるという指摘が多くなされてきていますので、そういうことでは、しっかり確認していただくことが必要です。ただ、牛乳とかたまごなどを除去するばかりだと、給食係が大変になってきます。いちいち神経を尖らせていなければいけなくなりますから。しかし、そこまで徹底してやらなければいけないということも事実です。

○ 学校給食は、今、外部に委嘱しています。その職員の人たちが、学校にきて児童生徒が食べているのを見るという機会はあるのですか。(事務局:「はい、あります。’)そういう姿を見ていないと分からないところがあります。また、よその地域では「地産地消」というので、土地のものが提供されるということがあるのですが、宇多津の場合はどうでしょうか。(事務局:5月頃に、「さわら」が出されたり、「まんぼのけんちゃん」を出したりしています。’)そういうことを広報にも出して、一般の人たちにも知っていただくと思います。(事務局:もちろん広報にも載せていますし、保護者の方には「給食だより」で伝えています。’)また、食べる人と、作る人との交流があるといいと思います。「30・10運動」も実施されていますからね。

1-(3)-②

生活習慣病の予防促進(小児生活習慣病対策事業)

○ この生活習慣病対策は、宇多津町と三木町から始まりました。どちらも先進地域で宇多津がリードしてきました。今は、県内全体に渡っていますが、いずれにしても第一次検査で小学校で31人、中学校で31人ですか、発見に尽くしているということは、大きな意味があると思います。しかも、その二次対策として処置がきちんとしているということです。その結果として、小学校で4名、これは恐らく県内の数字からすると、極めて少ない数字だと思います。それは処置が非常に適切だということです。検査・発見・生活指導というのは、セットですから、これはしっかりとやっていただきたいと思います。いずれにしましても、プラス生活指導ということで、体を動かす、あるいは和食、野菜、外遊び、朝食等いろんなことが出てきますが、フォローを十分していただければと思います。

○ 第1次検査、2次検査とやっていきますよね、この数値についてですが、他の市町と比べてどのくらい違うのか知りたいのですが、その辺りは分かりますか。例えば、小学校で31名(5名)となっていますが、この出現率等についてですね。スクリーニングした結果の観察、要精検の値が、他市町村とか全国平均とかがどうなっているかということです。ここを出ていなくても、他のところで出ていれば構いませんが。

1-(4)-①

学校諸施設の整備・充実

1-(4)-②

ICT化の促進

○ 懸念するのは、去年の数値を見させていただきましたが、電子黒板の使用が80%の先生方が利用していないということです。そういうデータがあって、28年度にどれだけ確認したかは分かりませんが、2つの理由が考えられます。1つは、「課題解決型授業」というのは、非常に時間がかかるということです。もう1つは準備の時間がかかります。その点では教育機器に慣れるための現職教育の機会が必要になります。せっかく宇多津町がこれだけ機器を揃えてくれているのに、使いこなせないという方々が出てくる可能性があります。もう1つは、これはどうしようもないのですが、高校入試を控えている時期には、電子黒板やICT機器を使うと、なかなか授業が進まないのです。どうしても一方通行ではなくて往復になりますから、そういう点では社会・理科・数学・英語・国語という入試に伴う5教科ですね、そのうち理科だけは実験に代わってこのタブレットが使えない訳ではありませんが、いずれにしても進度を確保しないと、入試に対処できないということがありますから、そういう点ではなかなか利用しづらいということがあるのかなと思います。

○ 各施設ごとの現状で、ワープロが「ジャストシステム」を使っているのですね。今、大学の学生は、ほとんどワードでオフィスを使っているのですが、「一太郎」もマイナーという訳ではありませんが、この辺について

何かあるのですか。セットで買うと、当然安くなるということもあるでしょうし。このソフトでいいのだろうとは思いますが、ワードから入った方が楽ということもあると思えるし、微妙に会社がからむので何ともいえないのですが。

《事務局より》

(この席上では答えられなかったのですが、)その後、学校に問い合わせたことは、小学校ではワードや一太郎等の本格的なものを勉強するというよりも、もっとその前の段階の基礎的なことがらを勉強していることから、このジャストシステムを使用しているということでした。

○ 電子黒板の話が出ましたので、これは個人的な見解ということですが、「電子黒板は非常に使いにくいというのが実感なのです。」大学でもあるのです。自分も持っていったメディアなど、例えばパワーポイント等を使う時などは、とても使いやすいのですが、画面に書こうとすると板書するよりも圧倒的に難しいのです。なぜか上手く書けないのです。だから、使われないのではないかと思います。画面も小さいし、角度があると見えにくいということもあります。高い割には、そういうところがあります。電子黒板は1台100万円くらいします。私は、割と使う方ですが、書こうとすると使いづらいですね。40人の子どもが電子黒板を見るというのは、小さいですからたいへんだと思います。板書の方が、いろんな角度からでも見やすいと思います。ですから、先生方のカンファレンスで使うとか、使い方工夫が必要でしょうね。

《事務局より》

現在、各学校に3台～5台の電子黒板を設置しているのですが、中学校は今回古いテレビを、大型テレビに交換したのです。先生方も、電子黒板を使いこなしていないのです。その中で、大型テレビにパソコンをつないで授業をするのですが、電子黒板は難しいようです。それに電子黒板は移動することになりますから、それも手間なようです。授業も「4人グループ」になっていたりしていますから、テレビは吊るしていますから、見やすいということもあるようです。そういうこともあって、中学校の要望は大型テレビに代わってきています。これからの教科書がデジタル化してきていますから、その意味では資料がデジタルで配布されてきますから今後は電子黒板の使い勝手も変わってくると思います。それから、タブレットについては、一人1台とまでいかないまでも、増やしていきたいとは思っています。

| | |
|---------|----------------|
| 1-(5)-① | いじめ防止等対策委員会の実施 |
|---------|----------------|

| | |
|---------|----------------------------|
| 1-(5)-② | 就学前健康診断事前アンケート(「成長シート」)の実施 |
|---------|----------------------------|

| | |
|---------|------|
| 1-(5)-③ | 教育相談 |
|---------|------|

○ これは昨年度もお話いたしましたが高松市の教育委員会では、この相談は任意だったのです。ですから一日に20人というふうには飛び込んできます。飛び込んできても全部に対応していましたね。宇多津町の場合は、予約制になっていますね、予約制というのは治療的な教育相談で、継続しなければいけないからどうしても予約制になります。しかし、逼迫している人もいます。そういう人に対して、新規枠というのですか、そういう枠が必要になりますが、これを見ましたところ28年度初めてだと思ふのですが、新規枠が設けられています。これは大きな救いだと思います。治療的、予約的な教育相談だけでなく、逼迫している人に対して、予防的な教育相談の枠を設けていただいたことは、たいへん良いことだと思います。

2. 地域とともに取り組む青少年健全育成活動の推進

| | |
|---------|---------|
| 2-(1)-① | 子ども会の育成 |
|---------|---------|

○ たいへんに厳しい状況ですが、自己完結でない内容も必要な気がします。

○ 子ども会参加人数が減少しつつあるのは、全体的傾向であるそうですが、社会教育の面からも地域教育

の問題点として、今後の課題として考慮する必要があります。

○ 子ども会は大切なものですが、だんだん減ってきています。それは、保護者の参加が少なくなっていることが、要因の1つと言えます。重点的に取り組む必要があると思います。

○ 子ども会は難しいという印象がどうしてもありますから、どうすればという点から知恵が寄せられればいいのになと思っています。

○ 最近の子どもたちは、外遊びが少なくなってきました。自然体験遊びだとか、体力遊びとか、ちゃんばらやままごのような模倣遊び、そういうことや生活が夜型になったこと、コンビニの利用、清涼飲料水のがぶ飲みなどが増えています。清涼飲料水はブドウ糖の増加を促進して、「きれる」子ども・いじめ・感情のコントロールができない子どもが出てきています。そういう現在の子どもたちのマイナス面を、宇多津町の子ども会は修正し、フォローしています。充実した行事・体験を組まれています。無気力・不登校の増加にも対応して宇多津町の教育委員会がフォローして修正している取り組みが、この子ども会の育成だと考えます。

2-(1)-②

寺子屋

○ これは宇多津町の伝統行事というか、素晴らしい社会教育ですが、今、学校教育・家庭教育・社会教育といいますが、いちばん欠けているのが子どもに対する社会教育ではないかなと思っています。その意味では、先ほども述べましたが、2つの小学校の方から、せっかく作ってくれている「寺子屋」に参加するよう進めていただけないかな、子どもが「つまらない」というかも知れませんが、大人の話や話を聞くとか、学校帰りに話を聞く、そういう場は非常に重要です。まして2つの小学校が、いずれは1つの中学校に入るのです。そういう点では、人間関係を作りという点でも、「寺子屋」の果たす役割は非常に大きいと思います。大事な宇多津町の教育だと考えます。

2-(1)-③

子ども議会

○ 中学生にしてみれば、あと3年か4年で、いわゆる参政権が得られる訳ですから、その意味で政治教育の事前指導と捉えてもいいと思います。今、政治的無関心がたくさん出ていまして、投票率へも影響しています。宇多津町だけでなく、子ども議会は他市町でも行っていますが、重要な公民教育であるということ、念頭に置かれて、引き続き充実策を取っていただければと思います。特に、参観者が非常に限定した人数となっています。せめて学校の方で、総合的学習に振り替えてでも、参加する人が増えてくれればいいなと思います。

2-(1)-④

成人式

○ 成人式の主人公は成人ですから、壇の上に上がるのは成人の人たちであって、来賓だけが上に上がって、そこだけに灯があたるというやり方を、もう少し工夫できないものかと思います。そして、こういう機会にこそ、若い人たちへの必要な教育だとかもあっていいし、参加したくなるような楽しい雰囲気はどうやって作るかという点かを考えることも大切です。

○ 会場側の照明をもっと明るくして、成人の方々がよく見えるようにしていただきたいと思います。

○ 自主企画は、最近のはやりですが、若い人たちというのは、結構企画力をもっていますから、ある程度はやらせて、宇多津をしょっていってもらおうというのは、いいかなと思います。

《事務局より》

成人式については、毎年若者を中心に企画・運営していただいています。今年は、少しおとなしい方々でしたが、若い人たちの発想で企画をしていただけてやるようにはしています。今後も、様子を見ながらやっていきたいと思っています。

○ 成人たちによる自主的企画・運営については、大いに評価したいと思いますが、26年度の68%から、27

年度66%で2%減っています。28年度は57%ですから、前年度に対して9%減っています。成人式は月曜日に実施されます。月曜日を祝日にしている訳ですが、土・日・月の真ん中に成人式をもってきている訳です。県外から帰る人にとってみると、帰りはゆっくり帰る、翌日はまたゆっくり県外へと帰ることができるということですが、地元の人にとっては2日間まとまった時間がほしいという人にとっては辛い設定だと思います。それは、私のような市外のものが言うことはありませんが、なぜ9%も減っているのかということが、真ん中に設定しているのが理由かどうかは分かりません。が、ご検討いただく必要はあるのではないのでしょうか。アンケートなどで調査なさるのも良いかと思いますが、たぶん1月7日で今年も実施なさるとしていますが、今後の検討課題として考えていただけたらと思います。

2-(2)-①

家庭教育学級

- 親子の料理教室を計画したのは、たいへん良いことだと思います。他にも、保護者からの意見も聞いて、親子で触れ合う場のアイデアを出してもらおうと、よい案が出ると思います。
- ラジオ体操へは、中学生ももっと参加していただきたいと思います。
- この人に話を聞いてほしいという人が、参加してくれるような工夫がいると思います。一般的な講演だけでなく、個々の対応が良いのかも知れません。
- これは非常に良い成果が出ていると思います。ここでは人数だけですが、内容的にもすごく深いものを感じます。
- 「開かれた学校教育」の一環として、各学校でなされていることから、多くは言いませんが、個々のテーマから考えますと、「親の態度」によって子どもの非行が起こっているという現状を踏まえた、親は子どもに対してどうあるべきかということを念頭に置いたテーマが非常に多いのです。しかし、神奈川県座間市の自殺願望の人たちなどの、スマホ対策についてもあっていいのではないかと思います。

2-(3)-①

人権・同和教育(生涯学習課)

- 障害者差別解消法ができた、その同じ年にすかさず障害者差別解消の取り組みをなされているというのは、たいへん適切に取り組んでいるという実感を受けました。ただ、地元では「ハンセン病」のような差別を受けている事象もございます。今後、いろいろなテーマの設定も考えていただいていいのではないかと思います。特に、「ハンセン病」の人たちは、大島を訪れていただければ分かりますが、親や兄弟とも暮らすことができないし、実名を名乗ることもできないし、故郷に帰ることもできないし、死んでも故郷の墓に埋葬してもらえないという悲劇がございます。広くまた、今後の課題を設定いただければと思います。

2-(3)-②

人権作品展(学校教育課)

2-(3)-③

人権・同和教育だより(学校教育課)

2-(4)-①

放課後児童健全育成事業

2-(5)-①

あいさつ運動

- 学校を訪問した折に、学校内ではよくあいさつをするようになってきています。が、地域に帰って校外のあいさつは、まだまだです。しかし、このことは、地域の住民の実態等から見ても、そう簡単には進まないと思われれます。自治会等へも呼びかけて、町民運動として取り組む必要があると思われれます。
- 「豊かな人間関係を作る」ために、この「あいさつ」は必要不可欠なのですが、平成28年度で終了するのですね。今後、どのように取り組まれるのか分かりませんが、せっかく宇多津の人間関係を育て、住みよ

い生活環境を育てるという意味で、基本的な要素としての「あいさつ」を、いっせいに同じ基準で実施してきたことがなくなるというのは、私は惜しい気がします。先ほどのように、いろいろなことを発展的に設定なさっているのではないかと思います。大切なことは、学校間格差が出てこなければいいかなと思っています。

《事務局より》

「あいさつ運動」そのものを、取りやめるというのではなく、この項目である「あいさつ」や「清掃」、「ボランティア」などは、必ず各学校で取り組んでいることであるから、取り立てて言わなかったとしても、同じように進んでいくであろうということから、町連携の重点的取り組みから外すということです。

2-(5)-②

QUの取組

2-(5)-③

清掃活動

○「清掃活動」も、28年度で終わると書かれてあります。「清掃活動」は、大切な「しつけ教育」であるということです。同時に貴重な「体験行動」です。最近、雑巾を絞れない子どもも出てきています。拭き掃除ができない子どももいます。3つ目は「人間関係の育成」です。特に、公共心を育てる、あるいは協調性を育てる、こういう人間性陶冶にもっともいいのが、「清掃活動」だと思うのですが、どのように発展的に解消するのかは分かりませんが、果たしてきた役割は大きいと思います。

2-(5)-④

ボランティア活動(児童生徒)

○「ボランティア」もなくなるようです。阪神大震災、東北大震災、九州もそうですが、駆けつける中学生の部活動や高校生の部活動の人たちと言うのは、何かそういう基盤のようなものがあるのだらうと思うのです。宇多津町の「ボランティア活動」はそういう基盤を育てるという意味で、大切な役割を果たしてきたと思うのです。特に最近の子どもたちは、自己中心主義で走りがちな生徒がいます。社会の一員としての自覚を育てるという意味では、「ボランティア活動」というのは、どういう形で発展するかは分かりませんが、これまで果たしてきた役割は大きいと思います。

《事務局より》

これは、「%」ではなく「人数」でしょう。54人から81人になったということで、その方々は学校に訪問したり等の支援をいただいたということ。これにつきましては、30年度から国の助成事業の「学校支援ボランティア促進事業」というのを改めて受けるようになっていまして、今、コミュニティ・スクールと言われていますが、それとは別に、地域・学校協働促進事業というのがあるのです。コミュニティ・スクールは地域の人が学校に入るのですが、この事業は地域のいろいろな場所に子ども達がやってきたり、ボランティアとして学校に入ったりするというものです。これには「推進員」を1名、コーディネーター的な人を決めて、その人が教育委員会やボランティアの方々との連携をしていく事業で、この「学校支援ボランティア促進事業」よりは、一回り大きな取り組みです。

2-(5)-⑤

学校支援ボランティア促進事業

○平成27年度が54%、28年度が81%、これだけ飛躍的に、100%には足りませんが、これだけ増加した秘策は何でしょうか。そう考えると、100%に持っていくのも夢ではないかなと思います。なぜ27%も一挙に増加したのかなと、その辺りですね、お聞きする必要はないかも知れませんが、秘策があるのだらうと思います。

2-(6)-①

少年育成センター業務

○放課後児童、不登校児童生徒の指導には、今後も力を入れていただきたいと思っています。

○ 表が多いのですが、育成センターが何を目標しているのか、何をすべきかということがよく分かるものにしてほしいと思います。困っている保護者の人に対して、どのように助け合いの輪を広めているのかも考えると良いのではないのでしょうか。

○ 今、深夜徘徊等も多くなっていますから、その意味で「帰宅促し」が非常に多く、主にしているというのは大きな成果だと思います。ただ、「危険行為」が、中学生が2件、高校生が9件というのは、非常に少ないと思います。合わせて11件ということですが、「危険行為」の基準が曖昧なのではないか、やはり補導における共通の指導事項については、共通理解しておく必要があります。「危険行為」について、傍観というか見逃しているか、声をかけづらいとか、そういう問題があるのではないかなと思っています。

2-(6)-②

サポートチーム連携協議会

○ 生徒指導に関係するのですが、いろいろな役目を宇多津町では分担して決めています。少年育成センター、児童委員、民生委員とか、それが全部いろいろな意味で子どもの教育に関わっています。その人たちが、難しいですが連絡し合うような、そういうところが少ないのです。みんなばらばらのような気がします。先日、ある会合で小学校の管理職の先生から相談を受けたのですが、ある学級の先生が上手く学級を運営できないというのです。どうすればいいのでしょうかということですが、何とか改善できる方策がないのでしょうかというのです。担任だけでなく、他の人の手助けがほしいということでしょうが、そういうことが校内だけでできにくくなってきている現状があるということでしょう。私の経験から考えますと、担任だけでどうにもならなくなった時に、PTAのお父さんが学校に毎日顔を出していただいて、授業中なども座っていただきました。それ以外にも教頭や私も教室に入ったりしました。5人くらいの男の子がやりたい放題をしていたのです。そこで担任の先生も困っていたのですが、その親を中心に、何人かのサークルを作って、夜に話し合いをしたりしました。また、家を訪問し話したりもしました。結果、クラスも落ち着いて上手くいったという経験があります。今からは、そういう地域の人たちとどうやって協力していくかということも考えていかなければ、学校だけでは難しい、手のかかる子どもも増えてきているようにも思います。

○ 大切なことは、連携協議会で共通理解を図ったものを、どのように現場で具体的な行動に移すかということだろうと思います。

2-(6)-③

宇多津町虐待防止対策ネットワーク協議会

○ この支援は非常に適切に行われていると思います。

3. 町民が健康で充実した生涯を過ごすための施策の推進

3-(1)-①

宇多津検定

3-(1)-③

② 平成相聞歌

○ 若い人たちだけでなく、「熟年相聞歌」ということを考えてもいいのかなと思います。

《事務局より》

熟年の方々からの投稿は、結構今でもあります。そこで、幼稚園や小学生からの「俳句」なども募集して対象が広がるようには考えています。

○ これは10年になりますね、もう伝統行事となりましたね。もう1つは、10年間で37000件の応募になっています。これは、もうローカルのなものではなく、全国的な文化の発信地になっているということです。この宇多津の主体的取り組みは、大いに評価できるものです。

3-(1)-③

文化財

| | |
|---|-------------|
| 3-(2)-① | 女性セミナー |
| <p>○「男女共同参画づくり」の一環として、このような研修の機会を設定なさっているということは、非常に意義深いものだと思うのですが、35ページの「ゆかた着付け教室」は、「女性セミナー」に回して「着物シリーズ」としてなされると、参加率が少し増えるのではないかと思います。</p> | |
| 3-(2)-② | 生涯学習講座 |
| <p>○この企画は大事ですから、ぜひ具体化を進めていただきたい。</p> <p>○生涯学習講座は、社会教育を進めるうえで、これからますます重要な分野になってくるので、力を入れていただきたいと思います。</p> <p>○香川短期大学もあるので、そことの連携、中学生を対象にした学生等の活用も考えられます。青年なども対象にしたものが、今後工夫されると良いと思います。</p> <p>○希望に応じて参加と活動がしやすく工夫がなされていますし、生涯を通して健康で、文化的、身体的な活動を通して、楽しく過ごすことを念頭に置いた取り組みだと思います。結論を言いますと、「ライフスキル」(＝生きる力を高めている)、そういう行事として高く評価しています。</p> | |
| 3-(2)-③ | 宇多津大学(老人会) |
| <p>○地域に密着した独特の取り組みだと思います。高齢者にとって、いちばん何が必要かという、1つは「身体の健康」です。特に今は「健康寿命」を延ばす必要があります。2つ目には、「精神的な健康」です。このメニューを見ますと教養的なものを見られます。そして、「生活の安全」です。楽しく明るい人生の創出です。この点で、宇多津大学は非常に良い取り組みをなさっていると思うのですが、ただ最近高齢者の焼死、交通事故、転倒による寝たきりがごぞいます。メニューを増やす必要があるかどうかは分かりませんが、そういうものもお考えいただくといいかなと思います。</p> | |
| 3-(3)-① | スポーツの推進 |
| <p>○スポーツを通して、交流と町の活性化ということを念頭に置いて設定されているのだらうと思いますが、香川県のスポーツの実践率は59.5%、全国35位です。全国平均の63%を下回っているという状態です。そういう中で、宇多津町は懸命に頑張っている訳ですが、参加率という点でどのように増やすかということですが、これは町がお考えになることですけれども、7月16日の「海の日」は、これは危険ですから、推し進めるということではできないかも知れませんが、8月11日の「山の日」ですね、これは宇多津町の「まちづくり課」が計画したのですが、ただ参加率ということだけでいうなら、「まちづくり課」と「教育委員会」の共催にするだけで参加率は上がります。もう1つは10月8日の「体育の日」ですね。いずれにしても、こういう行事を設定していただいているということは、町民のために役立っています。</p> | |
| 3-(3)-② | 大松杯バレーボール大会 |
| <p>○中学生の参加をぜひ呼びかけていただいて、応援する体制も含めて、盛り上がる大会になるようにお願いします。</p> <p>○大松杯は、是非全国に発信していただきたいと思います。オリンピックとも関連づけて、発展させていただきたい。</p> <p>○これは伝統行事として、50年の歳月が経っています。この大松杯バレーボール大会を宇多津町が設定したのは、1993年(H5)の香川・徳島の「東国体」が契機ですが、それからでも20年が経過しています。伝統の灯を消すまいとして、必死に取り組んでいる状態がよく分かります。</p> | |

| | |
|---------|----------------|
| 3-(3)-③ | 宇多津子どもロードレース大会 |
|---------|----------------|

| | |
|---------|--------------------|
| 3-(3)-④ | スポーツ及び文化芸術激励金等交付事務 |
|---------|--------------------|

○ 各部門の件数と総額のみしか分からないので、その適否については判断できませんが、スポーツ部門に対して、文化芸術部門が少ないのは、そのまま町の実態がうかがわれます。スポーツ部門に対して、芸術部門が遅れているのが、町の現実といえると思います。

○ スポーツと文化の底上げをするという点で、いい発想だろうと思います。平成28年度を見ると、総数50件、210人、76万円ということですが、悪く言うと、もらって当たり前、もらって得した、もらわなければ損、そういう意識が出はしないかということを感じるのです。その点では、少し減らして、「優秀賞」「特別賞」を設定すると、「あの子がもらったのか。」とか、それが町の広報誌などに載ると、もう少し増えるのかななどと、思うのですが、いかがでしょうか。

《事務局より》

これは、先生が勘違いなさっているから、はっきり説明した方がいいと思います。「優秀賞」とか言われたでしょう。これは各分野で、四国大会とか全国大会に行きます。その時に「奨励金」として、四国大会ならば5000円、全国なら10000円とかいうように、「奨励金」の形でお渡するものです。ですから、先生のおっしゃった「優秀賞」とは違うものです。ですから、「参加奨励報償」的な「祝い金」のようなものなのです。

【全体的なものに関わって】

《長尾先生より》

○ この教育委員会評価が、あれもこれもと項目が多過ぎている気がします。もう少し重点的にして、特徴等が鮮明にできると思います。評価する立場になると、あれもこれものいうのはできません。例えば、小学校できまりを守るということでも、「はきものをきちんと揃える」という1つのことを徹底することで、他のものに波及していくということがあります。そういうふうに具体的に、みんなが分かり易いとか、そうした評価したものは保護者も見て意見が言えるようにするなどがあれば、いいと思います。

○ 「ソリューションシステム」というのですが、具体的にどうしているかということです。各部会に分かれていたり、情報交換部会等、細くなっている気がします。また、授業改善についても前からやっていますが、勉強の仕方も細くなってきたという気がします。そうなってきたものを評価することは、困難になってきています。逆に言うと、これで「ソリューションシステム」と言えるのかと言えないこともないと思います。

○ 先生方が、データを集めることにあくせくして、子どもと向き合う時間がないのではないかと心配しています。こういう評価を見て感じることは、なかなか生々しいものが感じられないということもあります。それに、各事業ごとの書きぶりも、微妙に違うということがあります。これは、それぞれ分担して書いたということでしょうが、文章を中心に書いているものもあるし、数字と表だけのものもあるし、その点で統一性がないように思います。

○ 「現職教育」ということですが、私が今の公立学校の先生で欠けているのは「指導技術」だと思います。授業中の指導技術、環境についても、教室を見るとすぐ分かりますが、画一的になって40人ならばそれをベターと貼っているだけではなく、環境を心の温まるものにする配慮を大切にしていることが大事です。例えば、教育委員会だとするならば、委員会の部屋に入った時に、他の人と対話するための構えといいますか、お迎えする雰囲気ができているかどうかということです。それは一足入っただけで分かります。子どもを相手にしている訳ですから、子どもの顔が出てこなければなりません。事務的に処理するだけではダメだということです。教室掲示についても、管理職はもっと指導すべきです。画一的過ぎると思います。個性を生かすというのですから、それにふさわしいものにしていく必要があります。

○「現職教育」に関して、もう1つ、新規採用の先生に話を聞かせてもらったことがあるのですが、1年間に、1度も研究授業をしたことがないという人がいました。自分がやってみることで、本当に力がつくのです。人の授業を見ることで学ぶこともあります。まずは自分ですること、そういう「現職教育」の中で授業をすることこそ、今の連携教育の中でもやるなど、数を増やして実施することが大事です。教育委員会がどうしても言えないかもしれませんが、とにかく「現職教育で自分を鍛える」ということが、基本的なこと。中には教師がしゃべるばかりで、子どもに発表させない、そういうことが多いのですが、以前までの中学校は、ほとんどそうでした。最近、「共同学習」を導入することによって、変わってきました。

○ 問題行動とも関連するのですが、小学校で児童と一緒に給食を食べる機会がありました。その中の1人の女の子が、自分のことを「オレ」と言うのです。それだけでなく、1人だけがしゃべり続けるということがありました。今の「対話による教育の推進」とは丸反対で、ことばの使い方が小学生らしくないということです。これは恐らく家庭の中で同じようなことがあって、それをまねしていると思われる。そういうことばの表現について、個々の教育と結びつけてする必要はないかと思えます。これは、宇多津だけのことではなく、香川県全体にも言えることです。英語教育もいはいけれども、正しい日本語の使用ということも大事にしていきたいと思えます。

○ ユープラザのホールや図書館活動など、成人教育に係るものと教育委員会とが、どのように関係するのかということですが、あまり関係がないのではありませんか。財団がやっているということで、中身についても任せっぱなしにしているということがあるのではないかと思うのです。せめて町としての教育方針が反映するようなものにならないものではないでしょうか。そこまでいなくても、館長さんと話し合うくらいは必要ではないかと思うのです。企画について、町が積極的に関与していくようにすれば良いと思うのです。

○ 南部に「文化的施設」がないということが、気になります。あっちの方から、図書館に本を借りに行くというのは、お年寄りなどは無理というものです。

《会澤先生より》

○「インクルーシブ教育」や「アクティブ・ラーニング」について、たぶん意識されていると思いますが、教育計画の中で、その辺りを意識していくといいなあと思います。私たちの大学でも話題になっていますが、あまり知られていないのですが、いわゆる「幼児教育」をどうするかということについてです。特に宇多津の中では根幹なんだろうと思うのです。今、宇多津幼稚園と香川短大附属幼稚園とあおやま幼稚園が担っています。幼稚園教育要領が変わっていくということもありますので、それに合わせて保護者支援ということですが、これはすでに実施なされていますが、これをどうしていくのかということは、教育の本流ということで、非常に大事なことだと思います。期待しています。取り組み易さという点もありますから、成果を上げていただきたいと思えます。

《玉井より》

○ 宇多津教育のすばらしさは、1つには「学校教育」については、他の市町では考えられませんが、保育所・幼稚園から小・中学校に至る「一体的・総合的・具体的な連携の教育」で成果を上げているということです。2つ目には、「生涯教育」で、地域の特色を最大限に生かした、地域に根ざした施策が行われているということ、特にこの要項を見せていただいた時に、「女性セミナー」とか「生涯学習講座」、いわゆるリカレント教育、学び直しと言いますか、その教育にたいへん充実して、力を注いでいると言う感じがいたしました。3つ目が、老若男女の各年齢層に視野を置いた、幅広い行事が設定されていて、全町民を対象にした満足度の高い、町の活性化に役立つプログラムが組まれています。特に私が感じたのは、高齢者の生きがい、安全、健康年齢を延ばす、すばらしい取り組みがなされています。4つ目には、次の世代を担う人たちの育成に重点を置いた施策がなされています。特に、私が感心したのは、子どもを地域で育てる、あるいは地域の中でしっ

かり活動させる、そういう方針が明確に打ち出されているということです。他には、芸術文化の振興、子どもの健全育成と事故防止、給食等に真剣に取り組んでいるということ、7つ目には、故郷、特に宇多津町を愛する心を育てる教育がなされているということ、そして、全体的には多彩な取り組みで、それぞれ特色ある効果的・有意義な取り組みがなされています。

○ 私は、この40ページに渡る、この状態を見た時に、県内では最もすぐれているというのは、4ページの「英語教育」だと思います。各市町が前出しをするようになりましたから、宇多津町の先進的取り組みは薄れてきましたが、まだ一歩リードしている状態だと思います。また、「生活習慣病対策」は、県下一円に取り組むようになってきましたから、これも宇多津の先進的取り組みの影は少し薄らいできましたが、依然として宇多津町は卓越した取り組みであることは言えると思います。次に、宇多津町独特と言いますか、独自性と言うのは、4ページの「ソリューション・システム」、17ページの「寺子屋」、31ページの「宇多津検定」、32ページの「平成相聞歌」、36ページの「宇多津大学」です。

○ 全体を見まして、非常に充実していると思ったのが、9ページの「安全・安心の学校給食」、12ページの「ICT化の促進」、16ページの「子ども会の育成」、18ページの「子ども議会」、23ページの「放課後児童健全育成事業」、24ページの「あいさつ運動」、25ページの「清掃活動」、26ページの「ボランティア活動」、34ページの「女性セミナー」、35ページの「生涯学習講座」、37ページの「スポーツの推進」が、とても充実した取り組みだという印象を持ちました。

○ 11ページの「学校諸施設の整備・充実」では、学校の施設整備が適切になされています、13ページの「いじめ防止対策委員会」では、その対策効果が出ているのではないかと、19ページの「成人式」も、自主運営で成果を上げています。23ページの「放課後児童健全育成事業」も、適切な運営だと思います。最後に伝統的な事業として、38ページの「大松杯バレーボール大会」と、39ページの「宇多津子どもロードレース大会」があります。いろいろと挙げてきましたが、特色ある取り組みがなされていて、非常に充実したもの、あるいは非常に適切であるという感じがいたしました。